

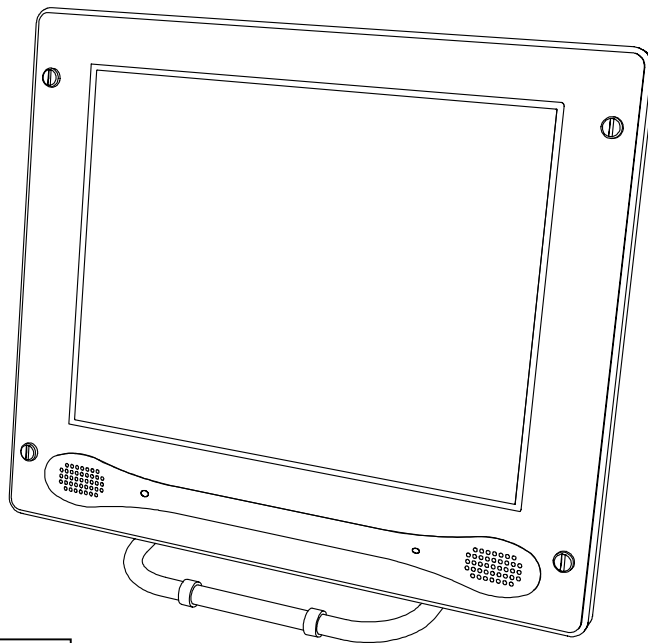
**KDT615XAAAG-1/KDT615XABAG-1/
KDT615XBAAG-1/KDT615XBBAG-1/**

Web Based Client

WebLightEXP
ウェブライト

取扱説明書(公開用)

2004 年 1 月 28 日発行



保証書別添付

注 記

- この取扱説明書をよくお読みになり、記載内容を十分理解してください。
- 記載内容を十分理解してから、WebLightEXP の取扱いを開始してください。
- この取扱説明書を読み終えた後も、必要な時にすぐ参照できる場所に大切に保管してください。

はじめに

このたびは、弊社の WebLightEXP をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

この取扱説明書は、本製品を端末として採用し、システム構築を計画されている System Integrator 様、または同等の技術を保有されるシステムご担当者（以後両者を Sler 様と呼びます）向けの内容になっています。

この取扱説明書では、本製品の仕様や標準搭載ソフトウェアの操作、ならびに、本製品へアプリケーションを追加する際の注意事項等を説明しています。

本製品のご使用にあたっては Windows XP および PC/AT 互換機に関する基礎知識が必要となります。また、インターネット接続の設定やメールアドレスの設定、LAN（ローカルエリアネットワーク）接続の設定などは Sler 様側で設定していただく必要があります。
（Sler 様側での設定が困難な場合は、弊社営業部にご相談ください）

製品ラインナップについて

本製品は「アクリル」、「アルミ」製ベゼルの違い及び、CPU のクロック周波数の違いにより 4 種類のラインナップを用意しております。

設置について

本製品の設置を行う場合は、第三種電気主任技術者以上の資格をお持ちの方か、低電圧取扱作業に関する教育を受けた方または、同等の知識を保有する方の責任により設置を行ってください。それ以外の方が本製品を設置することを禁止します。

液晶パネルについて

TFT カラー液晶パネルは、非常に精密度の高い技術で作られており、99.99%以上が有効画素ですが、0.01%以下の画素欠けや常時点灯する画素が存在します。これは故障ではありません。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

Microsoft、Windows、Windows XP Embedded は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

お知らせ（必ずお読みください）

本製品について

- 本製品を以下の環境下でのオンライン制御装置に使用しないでください。
 - ・ 原子力関連施設や防衛施設
 - ・ 航空機や船舶、自動車等の操縦・管制システム
 - ・ 生命維持装置等の医療機器
 - ・ その他、本製品の故障により身体や生命、および財産に悪影響を及ぼす環境
- 万一、本製品が故障や誤動作、もしくはプログラムの欠陥等の原因で正常に機能しなくなった場合でも、人身事故や重大な災害につながることはないよう、システムの保護・安全回路を本製品とは別に設ける等の安全対策を施したシステム設計を行ってください。
- 本製品のタッチパネルを使用して、人命にかかわるスイッチ（緊急停止スイッチ等）を作成することは絶対にしないでください。タッチパネルの誤操作や故障に対応できるシステム設計を行ってください。
- 電子機器の使用が制限または禁止されている場所（航空機内等）で本製品を使用しないでください。電子機器などに影響を与え、事故の原因となる場合があります。
- 本製品は、日本国内での使用を前提に設計されています。従って安全規格、EMC、無線規格、通信規格の異なる海外での使用はできません。
- 本製品は可燃性、爆発性のガスまたは蒸気のある場所では使用できません。
- 本製品の仕様は製品改良により予告なく変更する場合があります。
- 本製品のハードウェア及びソフトウェアの改造または変更は禁止します。改造または変更される場合は弊社へご相談ください。弊社の承諾無く改造または変更した場合は保証の対象外とさせていただきます。

廃棄について

- 本装置のLCDバックライトには蛍光管が使用されています。破棄の際には各自治体の条例に従って処理してください。

この取扱説明書について




- この取扱説明書の内容は、日本語を母国語とする人を対象にしています。日本語を母国語としない人が使用する場合は、Sler 様側で安全指導を徹底してください。
- この取扱説明書には、オプション機器の説明も含まれています。
- この取扱説明書のイラストと実際の製品が一部異なる場合があります。また、分かりやすく説明するためにイラストの一部を省略している場合があります。
- この取扱説明書は著作権を有します。この取扱説明書のすべて、もしくは一部を無断で、複写、複製することを禁じます。
- この取扱説明書を紛失または損傷した場合は、弊社にご注文いただき、新しいものを取寄せてください。

安全上の注意


免責事項について

- この取扱説明書または保証書に記載の保証事項以外のいかなる明示の保証、および黙示の保証も、弊社は一切責任を負いません。
- 火災、地震、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用その他異常な条件下での使用により生じた損害に関して、弊社は一切責任を負いません。
- 接続機器との組み合わせによる誤動作などから生じた損害に関して、弊社は一切責任を負いません。

記号の意味

 警告	表記されている警告文に従わず、取扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う可能性が想定される場合を示しています。
 注意	表記されている警告文に従わず、取扱いを誤った場合、傷害を負う可能性が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される場合を示しています。
<u>アドバイス</u>	製品を操作するうえでの注意事項、または製品の性能を最大限発揮させるためのアドバイスを示しています。
	参照するページを示しています。

本体取扱上の注意

 警告
(a) 保護接地端子（アース線）はかならず第 D 種接地をしてください。接地をしないと感電するおそれがあります。
(b) 内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。火災や感電、故障につながります。
(c) 煙が出ている、異常に熱い、におい、音がするときなどは、ただちに使用を中止し、本製品の電源プラグを電源コンセントから抜いてください。Sler 様ご自身が修理することは危険ですので、絶対に行わないでください。
(d) 本製品を分解したり、改造したりしないでください。内部に高電圧部があり感電するおそれがあります。また、故障やトラブルの原因になります。
(e) 雷が鳴り出したら、本製品の金属部や電源プラグ、アンテナ線に手を触れないでください。落雷時に感電するおそれがあります。
(f) 本製品の通気穴はふさがらないでください。熱がこもり火災の原因になります。通気穴付近は最低 5 cm 以上離して設置してください。

注 意

- (a) 次のような場所で使用しないでください。故障の原因となる場合があります。
- ・ 周囲温度、相対湿度が仕様の範囲を超える場所
 - ・ 温度変化が急激で結露する場所
 - ・ 腐食性ガス、可燃性ガス、溶剤・研磨液などの雰囲気のある場所
 - ・ 極端にほこり、塩分、鉄分が多い場所
 - ・ 長時間、直射日光が当たる場所
 - ・ 雨、露などの水分が発生する機器、装置のある場所
 - ・ 振動や衝撃が加わる場所
- (b) 本製品の通気穴はふさがないでください。熱がこもり故障の原因になります。通気穴付近は最低 5 cm 以上離して設置してください。
- (c) 周辺機器を接続するときは、本製品および接続する周辺機器の電源コードを抜き、それぞれの取扱説明書に従って接続してください。また、指定以外のケーブルを使用したり、延長したりすると、発熱し火災や、やけどの原因となることがあります。
- (d) ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。本製品が落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- (e) 液晶パネルが破損した場合、内部の液体に触れた手で目をこすらないでください。万一、液晶パネルが破損して内部の液体が目に入った場合は、すぐに流水で 15 分以上洗浄した後、医師にご相談ください。
- (f) 本製品のタッチパネルはガラスを使用していますので、固いもので衝撃を与えたり、過度の力で押したりしますと破損してけがの原因になります。
- (g) 本製品の定格電源電圧に合った電源を使用してください。また電圧変動が規定値を超える場合は、定電圧トランスを接続してください。誤った電源を接続すると機器を破損する原因となります。
- (h) 本製品を機械や制御装置に組み込んだ状態で溶接を行わないでください。本製品は保護接地と信号グラウンドが内部で接続されています。溶接電流により本製品を破損することがありますのでご注意ください。
- (i) シャープペンやドライバーなど、先の鋭利なもので本製品のタッチパネルを押さないでください。傷や故障の原因となります。
- (j) ベゼルを強く押さないでください。ベゼルがタッチパネルと接触してタッチパネルが誤動作する原因となります。
- (k) 本装置の内蔵電池（リチウム電池）が液もれし、もれた液が体についたときは水でよく洗い流してください。

-
- (I) ベゼルにアルミを使用したタイプ（KDT615XABAG-1,KDT615XBBAG-1）を KIOSK 端末として使用する場合は必ずベゼル部分を筐体で覆うようにしてください。アルミベゼル部分を剥き出しのまま使用すると端末電源 ON 時にアルミベゼル部分が高温になるため接触するとやけどを負う可能性があります。

ソフトウェア使用許諾について

重要—以下のライセンス契約書を注意してお読みください。

本使用許諾契約書は、本システムに含まれるソフトウェアに関してお客様（個人または法人のいずれであるかを問いません）とコマットライリンク株式会社との間に締結される法的な契約書です。本ソフトウェアは、コンピュータ ソフトウェアおよびそれに関連した媒体、ならびに印刷物（マニュアルなどの文書）、「オンライン」または電子文書を含むこともあります。

本ソフトウェアをインストール、複製、または使用することによって、お客様は、本使用許諾契約書の条項に拘束されることに承諾されたものとします。

本使用許諾契約書の条項に同意されない場合、お客様は、本ソフトウェアのインストール、使用または複製のいずれも許諾できません。

本ソフトウェアライセンス

本ソフトウェアは、著作権法および著作権に関する条約をはじめ、その他の無体財産権に関する法律ならびに条約によって保護されています。

本ソフトウェアは許諾されるもので、販売されるものではありません。

第1条 ライセンスの許諾. 本契約書はお客様に対し、以下の非独占的かつ制限のある権利を許諾します。

A. バイナリコード

本ソフトウェアを含むバイナリコードは本ソフトウェアと対であるハードウェア上でのみにインストールや使用を許諾します。

B. 再頒布の禁止

本ソフトウェアを含むバイナリコードを第三者に配布することを禁止します。

C. その他の権利

本契約書にとくに規定されていない権利はすべてコマットライリンク株式会社によって留保されます。

著作権

本ソフトウェアおよび本ソフトウェアの複製物についての権限および著作権は、コマットライリンク株式会社が有するものです。本ソフトウェアを使ってアクセスできるコンテンツについての権限および無体財産権はコンテンツの所有者の所有物で、適用される著作権法および著作権に関する条約の規定によって保護されています。本契約書は、お客様にかかるコンテンツの使用権を許諾するものではありません。本契約書にとくに規定されていない権利はすべてコマットライリンク株式会社によって留保されます。したがって、お客様は本ソフトウェアを他の著作物と同様に扱わなければなりません。ただし、本ソフトウェアのバックアップとして、コピーを作成することはできます。ただし、これを本ソフトウェアと対となるハードウェアに復元する以外の目的

で使用することはできません。お客様は、本ソフトウェア付属のマニュアルなど文書を複製することはできません。

その他の権利と制限

A. リバース エンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブルの制限

お客様は、本ソフトウェアをリバース エンジニアリング、逆コンパイル、または逆アセンブルすることはできません。

B. サポート

コマットライリンク株式会社は本ソフトウェアを用いたお客様の「Windows 用アプリケーション」開発について原則としてサポートを提供していません。

C. レンタル

お客様は本ソフトウェアをレンタルまたはリースすることはできません。

D. ソフトウェアの譲渡

本契約に基づいたお客様の権利を譲渡することはできません。

E. 解除

お客様が本契約書の条項および条件に違反した場合、コマットライリンク株式会社は、他の権利を害することなく本契約を終了することができます。そのような場合、お客様は本ソフトウェアの複製物およびその構成部分をすべて破棄しなければなりません。

その他本契約は、日本国法に準拠するものとします。

保証

本ソフトウェアを変更なしに対となるハードウェアで使用した場合のみ動作を保証します。

本ソフトウェアにお客様の「Windows 用アプリケーション」を追加した場合の動作の保証はできません。

また、変更あるなしにかかわらずお客様による本ソフトウェアのいかなる使用についても、そのリスクはお客様が負うもので、コマットライリンク株式会社は責任を負うものではありません。

責任の制限

コマットライリンク株式会社は、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じる一切の損害（逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失またはその他の金銭的損失を含みますがこれらに限定されません）に関して一切責任を負いません。

たとえ、コマットライリンク株式会社がこのような損害の可能性について知らされていた場合でも同様です。

もくじ

はじめに	i
お知らせ（必ずお読みください）	ii
安全上の注意	iii
免責事項について	iii
記号の意味	iii
本体取扱上の注意	iii
ソフトウェア使用許諾について	vi
本ソフトウェアライセンス	vi
著作権	vi
その他の権利と制限	vii
保証	vii
責任の制限	vii
もくじ	viii
1. 仕様	1
1.1 付属品一覧	1
1.2 製品の仕様	2
1. 概要	2
2. ハードウェア仕様	2
3. ソフトウェア仕様	5
4. オプション機器	6
1.3 標準搭載ソフトウェアの概要	7
1. OSについて	7
システム保護機能について	7
2. 初期画面について	13
3. 自動起動設定について	13
4. インターネットブラウザについて	14
5. インターネットメールについて	14
6. ユーザ補助機能について	14
7. ファイラについて	15
8. 動画・音声再生について	15

9. タッチパネルドライバについて	15
10. デバイスドライバについて	15
2 ご使用前の準備	16
2.1 各部の名称とはたらき	16
1. 本体	16
2.2 スタンド（オプション品）の取り付け	18
2.3 キーボードとマウスの接続	19
2.4 ネットワークケーブルの接続	19
2.5 アース線の接続	20
2.6 AC アダプタの接続	20
2.7 CF カードの装着	21
2.8 電源の ON / OFF	23
2.9 タッチパネルの調整	23
3 ネットワーク接続の設定	25
3.1 設定前のご注意	25
3.2 ネットワーク接続の設定	25
1. ローカルエリアネットワーク接続の設定	25
2. インターネット接続の設定	26
3. メールアカウントの設定	26
4 周辺機器の接続	27
4.1 接続可能な周辺機器	27
4.2 周辺機器の取り付け/取り外し時の注意	28
4.3 標準対応の周辺機器	28
4.4 動作確認済み周辺機器一覧	28
5 タッチパネルの操作方法	29
5.1 タッチパネルの右クリックの有効化	29
6 標準搭載ソフトウェアを使う	30
6.1 ランチャー	30

1. 搭載ソフトウェアについて	30
2. 「Easy メニュー」のカスタマイズ	31
6.2 自動起動プログラムの設定	35
1. 搭載ソフトウェアについて	35
2. P_LOADERの設定ファイルの書き方	35
3. P_LOADERの実行	40
6.3 ホームページの閲覧	41
1. 搭載ソフトウェアについて	41
2. 利用上の注意事項	41
3. 「web@Client」の起動	42
4. 閲覧するページの指定	43
5. 「web@Client」上での文字入力	43
6. 「お気に入り」の利用	43
7. 「web@Client」の設定	45
8. ブラウザ機能のサポートについて	49
6.4 インターネットメールの利用	50
1. 搭載ソフトウェアについて	50
2. 利用上の注意事項	50
3. 「P'e-Mail」の起動	51
4. 「P'e-Mail」の機能紹介	51
6.5 文字の入力	53
1. 搭載ソフトについて	53
2. ソフトウェアキーボードの表示・非表示	54
3. キーボードボタン(WebToolXPe)の設定とその変更	54
4. キーボードボタン (WebToolXPe) のアクション画像変更	55
5. ソフトキーボード(Alternative Keyboard.exe)の機能とキー配列	56
6. ソフトキーボードによる文字の入力	60
7. ソフトキーボードの設定確認とその変更方法	61
8. テンキーボード(TenKeybd.exe)の機能とキー配列	64
9. テンキーボードの設定確認とその変更方法	65
10. 引数による設定情報の読み出し・保存先の指定	67
11. ActiveX を用いたブラウザからのソフトウェアキーボード制御	69
7 アプリケーションの追加	74
7.1 インストール方法について	74
1. ユーザーインストール	74
7.2 システム保護機能について	75
7.3 インストールに必要な準備	75
1. 他のパソコンとのネットワーク共有	75
2. CF カードへのデータ書き込み	75
3. USB メモリカードへのデータ書き込み	75
7.4 インストール先について	76
1. インストール先のドライブ	76
2. フォルダ構成	76
7.5 パートタイム方式でのインストール	77

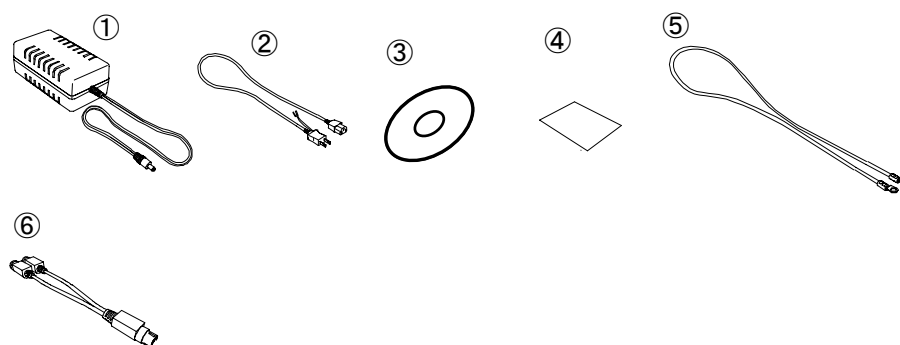
7.6	フルタイム方式でのインストール	78
1.	システム保護機能の解除	78
2.	インストール	78
3.	再プロテクト	78
7.7	動作確認済みアプリケーション一覧	79
8	システムリカバリ	80
8.1	システムリカバリについて	80
9	設置時の注意	81
9.1	設置条件について	81
9.2	取り付け金具について	82
10	エンドユーザに伝える注意事項	83
10.1	個人情報の管理について	83
1.	ブラウザ使用時の主な問題点	83
2.	メーラ使用時の主な問題点	83
10.2	部品や本体の廃棄について	83
10.3	取扱説明書について	83
11	日常のお手入れ	84
11.1	本体のお手入れ	84
1.	外装清掃時	84
2.	タッチパネル清掃時	84
12	故障かなと思ったら	85
13	主要消耗品	86
13.1	タッチパネル	86
13.2	バックライト	86

1. 仕様

1.1 付属品一覧

本製品に同梱されている付属品の一覧です。すべてがそろっていることをご確認ください。

- | | |
|-------------------------------------|------------------------------|
| ① 専用 AC アダプタ | 1 台 |
| ② 電源コード | 1 本 |
| ③ マニュアル CD-ROM..... | 1 枚 |
| 内容：【取扱説明書(本書)】..... WebLightEXP.pdf | |
| 【P'e-Mail（インターネットメールソフト）マニュアル】 | |
| 環境設定 | mailset.pdf |
| 入門編 | mailstart.pdf |
| 取扱説明書 | mail.pdf |
| 【タッチパネルドライバエンドユーザーズマニュアル】 | |
| | Serial RTP driver manual.pdf |
| ④ 保証書 | 1 枚 |
| ⑤ アース線（2m） | 1 本 |
| ⑥ 専用 PS/2 分岐ハーネス | 1 本 |



1.2 製品の仕様

1. 概要

本製品はパソコン本体と LCD モニタが一体となったネットワーク端末です。

ポインティングデバイスとしてモニタ前面にタッチパネルを装備しており、画面に触れるだけで操作を行うことができます。

OS に Windows XP Embedded(SP1 対応)を採用することにより、Windows テクノロジーに柔軟な対応が可能であり、NT 系 OS ならではの安定性も兼ね備えています。

また、家電感覚でいつでも電源の ON/OFF が可能です。

2. ハードウェア仕様

特長

- パソコン本体と LCD モニタが一体となったコンパクトボディ
- ファンレス構造による抜群な静粛性（400MHz モデル）
- ディスククラッシュの心配がないディスクレス構造
- 突然電源が切れてもシステムが壊れない、システム保護機能
- 多様な周辺機器に対応可能な USB×2 ポート標準装備
- 外部機器との接続を容易にするシリアル×2 ポート標準装備
- プリンタの接続を容易にするパラレルポート標準装備
- 外部マイク入力端子標準装備
- 内蔵ステレオスピーカ搭載によるサウンド出力機能標準装備
- 10BASE-T/100BASE-TX に対応した LAN×2 ポート標準装備
- オペレーションを容易にするタッチパネル標準装備（アナログ抵抗膜方式のためパネルの 2 点押しはできません）
- LCD モニタは、15 インチ XGA タイプを採用
- スタンド取り付けは、VESA FPM PMI（75mm×75mm、100mm×100mm）規格準拠

本体

項 目		仕 様			
製品名		WebLightEXP			
型番		KDT615XAAAG-1	KDT615XABAG-1	KDT615XBAAG-1	KDT615XBBAG-1
筐体ベゼル		アクリル	アルミ	アクリル	アルミ
CPU（メインボード）		VIA C3 EBGA 400MHz		VIA C3 EBGA 800MHz	
CPU クーラ		—		有	
インストール OS		Windows XP Embedded(SP1 対応)			
RAM	標準	256MB			
	最大	512MB			
オンボード CF カードスロット （システム部）		256MB（CF カード× 1）		512MB（CF カード× 1）	
拡張 CF カードスロット※ ¹ （エンドユーザ部）		最大	1024MB（512MB CF カード× 2）		
入力部		アナログ抵抗膜方式タッチパネル※ ²			
表示部		15 型 TFT カラーLCD			
表示能力	ビデオ ボード	オンボード			
	VRAM	メインメモリ共有			
	表示モード	1024×768 ドット（約 26 万色）			
外部インターフェース部		シリアル× 2			
		パラレル× 1			
		PS/2× 1（専用 PS/2 分岐ハブでキーボードとマウスを同時接続）			
		USB(1.1)× 2			
		LAN (10BASE-T/100BASE-TX)× 2			
		ディスプレイ出力（VGA）× 1			
		ステレオ音声出力× 1（内蔵スピーカ接続済み）※ ³			
		マイク入力× 1（ステレオ）			
スピーカ		内蔵スピーカ（ステレオ）			
電源スイッチ		シーソー型ロッカスイッチ			
電源 （専用 AC アダプタ）	周波数	50 / 60 Hz			
	入力電圧	AC100V～240V			
	出力電圧 （電流）	DC12V±5%（6A）			
	周囲温度	動作時 +5℃～+65℃			
消費電力（最大）		63 W			
外形寸法（スタンド部除く）		406mm（幅）×340mm（高さ）×75mm（奥行）			
質量		約 6kg			
周囲温度 （絶対最大定格）	動作時	+5℃～+35℃			
	保管時	-20℃～+60℃			
周囲湿度 （絶対最大定格）	動作時	20%RH～85%RH（ただし結露しないこと）			
	保管時	20%RH～85%RH（ただし結露しないこと）			
使用周囲雰囲気		腐食性ガスの無いこと			
耐振動		輸送・使用時に振動による破損の無いこと			

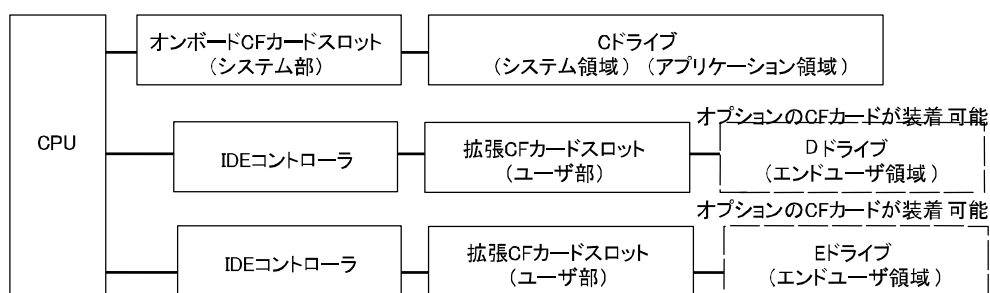
※1 使用可能な CF カードは 5V 用のみ。

※2 分解能：1024×1024 以上、透過率：79%以上、表面処理：ノングレア、2 点押し不可。

※3 外部スピーカ（オプション）を接続する場合は内蔵スピーカとジャック差替え。

※4 接続時には内蔵スピーカと自動切り換え。

カードスロット部



※ 各CFカードスロットには最大512MBまで実装可能

外部インターフェース部

項 目	本体表示	コネクタ種類	備 考
シリアル	COM1	D-sub9 ピン（オス）	RS-232C 入出力
	COM2	D-sub9 ピン（オス）	RS-232C 入出力
パラレル	PARALLEL	D-sub25 ピン（メス）	パラレルポート入出力
PS/2	PS/2	ミニ DIN 6 ピン	キーボード/マウス兼用 専用 PS/2 分岐ケーブル付属
USB	USB1	USB タイプ A（メス）	USB1.1
	USB2	USB タイプ A（メス）	USB1.1
LAN	LAN1	RJ45 コネクタ	10BASE-T/100BASE-TX
	LAN2	RJ45 コネクタ	10BASE-T/100BASE-TX
ディスプレイ出力	VGA OUT	ミニ D-sub15 ピン（メス）	
ステレオ音声出力	ISP OUT	ミニピンジャック	内蔵スピーカ接続済み
マイク入力	MIC	ミニピンジャック	ステレオ
電源入力	DC IN	DC ジャック（オス）	

アドバイス

- 以下、この取扱説明書では、「コンパクトフラッシュカード」を「CF カード」と略称で表記します。

3. ソフトウェア仕様

本製品には、いくつかの基本的なソフトウェアが標準搭載されています。

特長

- インターネットブラウザ標準搭載
- インターネットメール標準搭載
- ソフトウェアキーボード標準搭載

標準搭載ソフトウェア

Cドライブ（オンボードコンパクトフラッシュカード）にインストール済み

項目	アプリケーション / ドライバ名	Ver.	保存場所	インストール内容
OS	WindowsXP Embedded(SP1 対応) ※3		—	○
OS に付属	エクスプローラ	5.1	—	◎
	コマンドプロンプト		—	○
	ペイント	5.1	—	○
	ワードパッド	5.1	—	○
	メモ帳	5.1	—	○
	電卓	5.1	—	○
	リモートデスクトップ接続	5.1.2600.1106	—	○
	ボリュームコントロール	5.1	—	○
初期画面	Easy メニュー（ランチャ）	1.0	menu¥PD1000.exe※1	○
	Easy メニュー設定	1.0	menu¥setup.exe※1	◎
インターネットブラウザ	Internet Explorer※3	6.0	—	○
	web@Client（簡単ブラウザ）	1.0	web¥web_client.exe※1	◎
	web@Client 設定	1.0	web_client_setup.exe※1	◎
	P'e-Mail（簡単メール） （別名：VIPSTATION）	1.0	¥PeMail¥Exe¥vipMain.exe ※1	◎
ユーティリティ	P_LOADER(自動起動プログラム)	1.0	¥P_LOADER.exe※2	○
	P_LOADER エディタ	1.0	¥PLoaderEdit.exe※2	○
ブラウザ補助機能	キーボード表示ボタン	2.0	softkey¥WebToolXPe.exe※1	○
	ソフトキーボード	2.0	softkey¥Alternative Keyboard.exe※1	○
	テンキーボード	1.0	softkey¥Tenkeybd.exe※1	○
動画・音声再生	Windows Media Player	6.4	—	○
タッチパネルドライバ	タッチパネルドライバ	1.0.12	—	○
デバイスドライバ	WindowsXP Embedded(SP1 対応) 標準 USB ドライバ等		—	○

○：インストール済み

◎：インストール済みで、さらに「Easy メニュー」の実行ボタンに登録済み

※1を記載しています

※2を記載しています

※3 必要な機能のみ選択して低容量に集約化したカスタマイズ版

4. オプション機器

品名	型番	仕様
スタンド	KDT615STSG-1	グレー色

アドバイス

- オプション機器のご購入については、弊社営業部にお問い合わせください。

1.3 標準搭載ソフトウェアの概要

1. OS について

本製品は Windows XP Embedded(SP1 対応)の必要な機能のみを選択して、C ドライブ（オンボードの CF カード）にインストールしています。

システム保護機能について

本製品は不特定多数のエンドユーザが使用することを前提としているため、システム部のシステム領域（C ドライブ）に、書き込みを禁止するプロテクト（システム保護機能）を掛けて出荷しています。

この状態で、システム部にデータの書き込み操作（設定変更含む）が行われた場合、データはシステム部には書き込まれず、本体の RAM に読み込まれます。

これにより、本製品はシステム部のデータを保護したまま、あたかもシステム部にデータが書き込まれたかのような動きをすることが可能になっています。

RAM に読み込まれたデータは、本製品の電源を切ると同時に全て消去されますので、次回起動時には元のクリーンなシステム状態で本製品を使用することができます。

アドバイス

- Sler 様がシステムやアプリケーションの設定を変更し、変更内容を保存しておくためには、このプロテクトをいったん解除し、設定作業を行う必要があります。
作業終了後は、システム保護のため再びプロテクトを掛け、元の状態に戻しておきます。
- ネットワーク接続している状態でこのプロテクト解除を行い、設定作業を行う必要がある場合には必ずセキュリティ、ウィルス対策を万全に行っているネットワーク環境(ファイアウォールを設けている環境など)で行ってください。また作業終了後はシステム保護のため再びプロテクトを掛け、元の状態に戻すことを忘れずにおこなってください。

システム部（C ドライブ）のプロテクト解除と再プロテクト













2. 初期画面について

本端末にはランチャアプリケーション「Easy メニュー」がインストール済みです。電源を入れると最初に「Easy メニュー」画面が表示されます。

アドバイス

- P Loader の設定により、Easy メニューを起動しないように設定することができます。

Sler 様が計画されているシステムに合わせて「Easy メニュー」にアプリケーションを登録したり、ボタン等をカスタマイズしたりすることが可能です。

➡ 「Easy メニュー」の詳細については30ページで説明しています。

WebLightEXP の初期画面



メニュー 1



メニュー 2

アドバイス

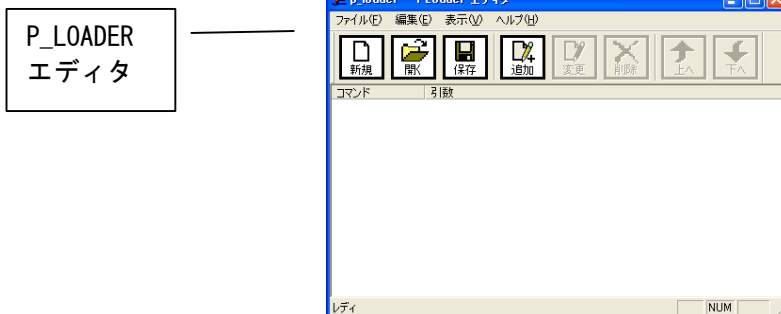
メニュー 2について

- メニュー 2には「Easy メニュー」や「簡単インターネット」の設定用アプリケーションが登録してありますので、エンドユーザが設定を変更しないよう、引渡し時には「システム」ボタンの削除を行ってください。

➡ ボタンの削除を含めた「Easy メニュー」のカスタマイズについては31ページで説明しています。

3. 自動起動設定について

本端末には自動起動設定を行うためのツール「P_LOADER」「P_LOADER エディタ」が搭載されています。Sler 様が計画されているシステムに合わせて OS 起動時に実行するプログラムをカスタマイズすることができます。



➡ 「P_LOADER」、「P_LOADER エディタ」の詳細については35ページで説明しています。

4. インターネットブラウザについて

本端末には容易に使用可能なブラウザ「web@Client(簡単ブラウザ)」がインストール済みです。

➡ 「web@Client」の詳細については35ページで説明しています。

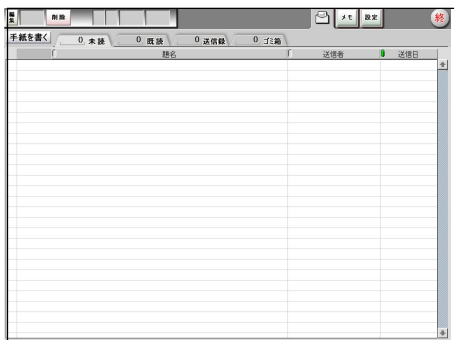


5. インターネットメーラについて

本端末には容易に使用可能な「P'e-Mail【別名：VIPSTATION】(簡単メーラ)」がインストール済みです。

➡ 「P'e-Mail」の概要については50ページで説明しています。

➡ 「P'e-Mail」の環境設定、利用方法については付属の「操作マニュアル(入門編、環境設定説明書、取扱説明書)」をお読みください。



6. ユーザ補助機能について

弊社独自のソフトウェアキーボードがインストール済みです。

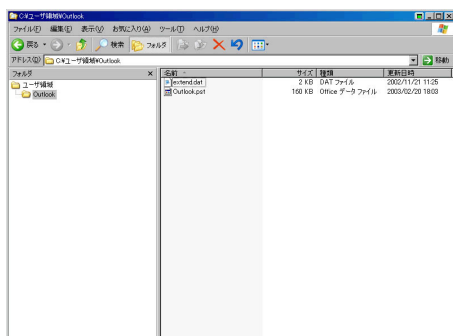
➡ ソフトウェアキーボードの詳細については53ページで説明しています。



7. ファイラについて

「Easy メニュー（ランチャ）」から「ユーザー領域ファイル操作」ボタンをクリックするとエクスプローラが起動するように設定にしています。

エンドユーザは「Easy メニュー」を終了させずに、拡張 CF カードに保存したメール等のデータを操作できます。



8. 動画・音声再生について

「Media Player Ver.6.4」がインストール済みです。

9. タッチパネルドライバについて

タッチパネルドライバをインストール済みです。

タッチパネルは適正に調整して出荷しておりますが、タッチした位置と画面上のマウスポインタの位置にずれが生じた場合は、位置補正を行ってください。

➡ 位置補正等の設定方法は本製品に付属の「Touch Panel (Serial) デバイスドライバユーザーズマニュアル」をお読みください。

10. デバイスドライバについて

Windows XP Embedded(SP1 対応)標準の USB ドライバ等をインストール済みですので、これらのドライバに対応した市販のパソコン周辺機器をそのまま接続して使用することができます。

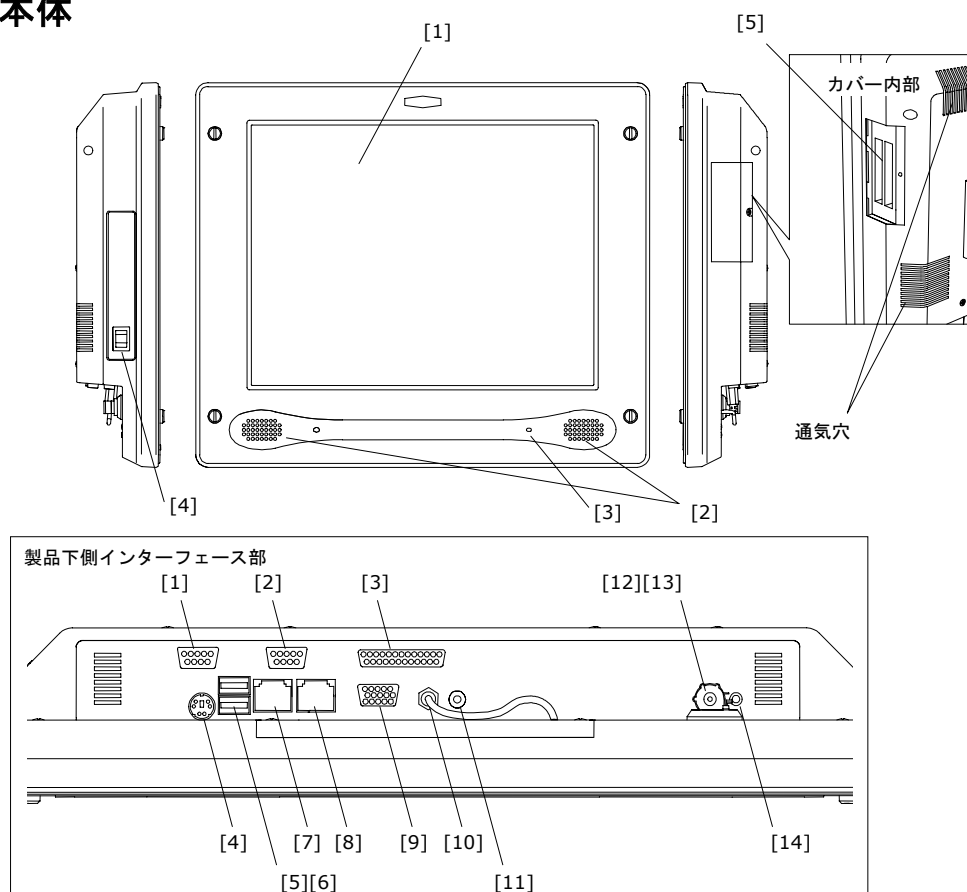
➡ 接続可能な周辺機器については27ページで説明しています。

2 ご使用前の準備

2.1 各部の名称とはたらき

本製品の各部の名称とその機能について説明します。

1. 本体



製品正面部分

- [1] タッチパネル
画面を指や専用タッチペン（オプション）でタッチして、アプリケーションを操作します。
- [2] 内蔵スピーカ
音声を出力します。
- [3] 電源インジケータ
電源投入時は緑色に点灯します。

製品左側部分


- [4] 電源スイッチ
本体電源の ON/OFF。

製品右側部分

- [5] 拡張 CF カードスロット (5V 専用)
Sler 様が開発されたアプリケーションや、エンドユーザのデータを保存する CF カードを、
最大 2 枚まで装着できます。

インターフェース部

- [1] シリアルポート (COM1)
- [2] シリアルポート (COM2)
- [3] パラレルポート (PARALLEL)
- [4] PS/2 ポート (PS/2)
- [5] USB ポート (USB1)
- [6] USB ポート (USB2)
- [7] LAN ポート (LAN1)
- [8] LAN ポート (LAN2)
- [9] ディスプレイ出力 (VGA OUT)
- [10] ステレオ音声出力 (ISP OUT)
- [11] マイク入力 (MIC)
- [12] 電源入力 (DC IN)
付属の専用 AC アダプタを接続します。
- [13] ケーブルクランプ
AC アダプタのケーブルを固定します。
- [14] アース端子 (FG)

 周辺機器の接続については27ページで説明しています。

2.2 スタンド（オプション品）の取り付け

アドバイス

●本装置のスタンドはオプション品として別売りとなっています。スタンドを購入された場合、以下の手順で取り付けを行ってください。

本製品をテーブル等の上に置いて使用する場合はオプション品スタンドを取り付けてください。取り付け方法は次のとおりです。

1. スタンドを組み立てる
 - 1) スタンドを箱から取り出す
 - 2) スタンドを広げる
 - 3) スタンド用ネジで2ヶ所を固定する
 - 4) ゴムカバーを取り付ける
2. 本体をタッチパネル側が下になるように置く

タッチパネルを傷つけないように注意し、平らで安定した場所に置いてください。
3. スタンドを本体に取り付ける
 - 1) スタンド取り付け用ネジで4ヶ所すべてを固定する
4. スタンドカバーを取り付ける
 - 1) スタンドカバーのツメを本体に差込む
 - 2) スタンドカバー固定ネジで固定する

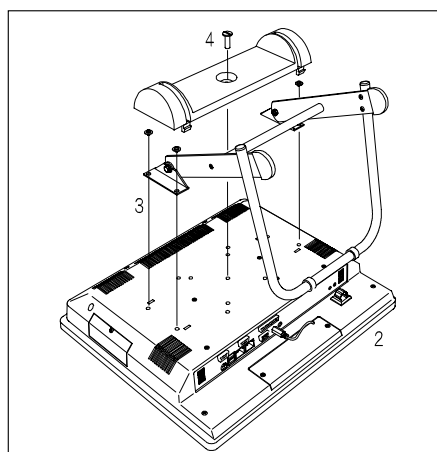
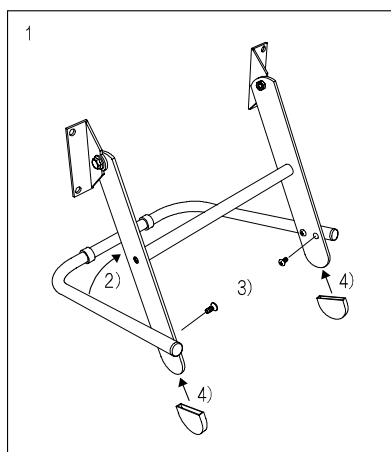
！ 注 意

スタンドカバーを取り付ける際には、カバー（スタンドのヒンジ部、スタンドの本体下部など）に指をはさまないよう注意してください。

アドバイス

●キーボードやマウス、LAN ケーブルを接続する場合は、このままの状態で行った後、次の手順に進んでください。

5. 本体を立てる
6. 角度調整をする

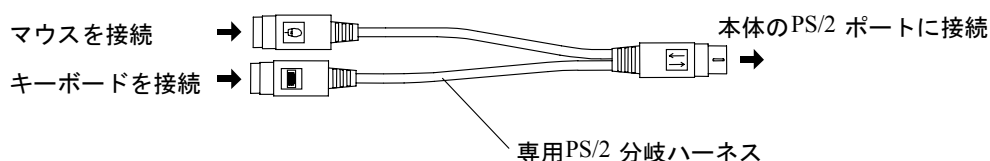


2.3 キーボードとマウスの接続

本製品にはタッチパネル上から文字の入力が可能なソフトウェアキーボードを採用していますが、各種設定作業中はタッチパネル保護と作業の効率化のため、市販の外付けキーボードとマウスの接続しての作業をおすすめします。

キーボードとマウスの接続

1. キーボードとマウスを付属の専用 PS/2 分岐ハーネスに接続する
2. 反対側を本体の PS/2 ポートに接続する



アドバイス

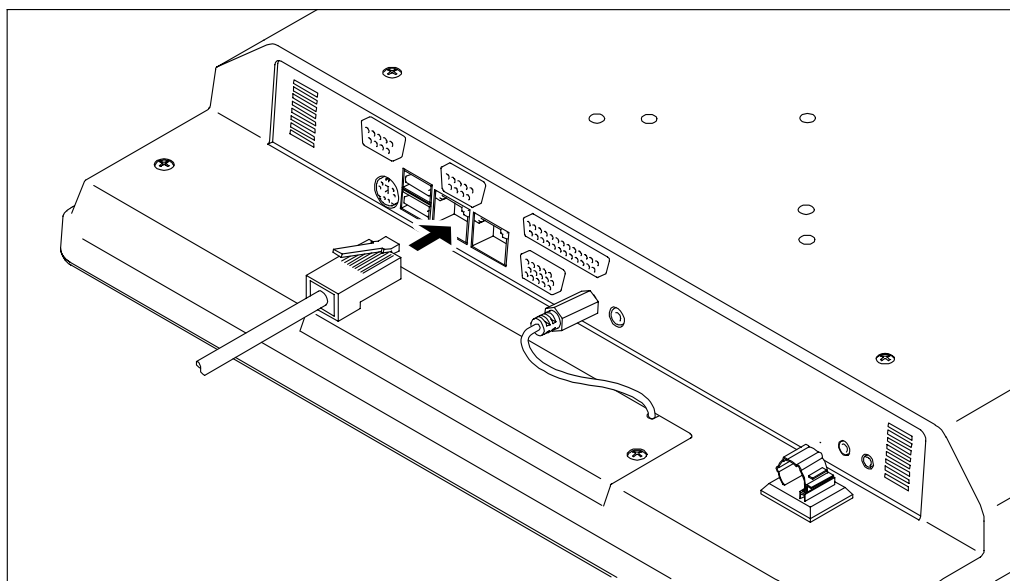
- ソフトキーボード(53ページ以降参照)を市販の外付けキーボードと同時に使用しないでください。同時操作をすると CapsLock や NumLock、入力モードが表示画面と違う動作をする場合があります。

2.4 ネットワークケーブルの接続

LAN ケーブルのプラグの向きに注意して、本体の LAN ポート (10BASE-T/100BASE-TX×2) にプラグを差し込んでください。

アドバイス

- LAN ケーブルは別売です。
- 接続するネットワーク環境や、機器の規格にあった LAN ケーブルを用意してください。

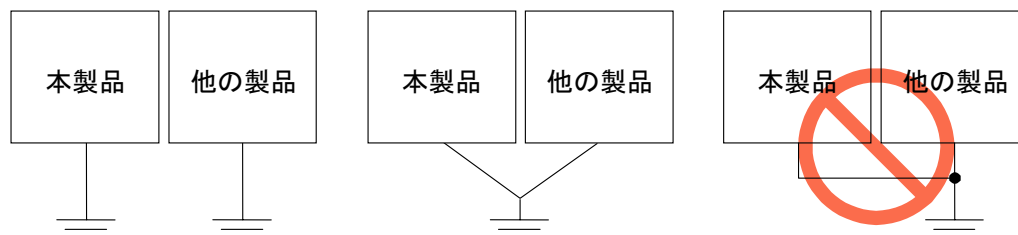


2.5 アース線の接続

感電防止のため、本体のアース端子（FG）に付属のアース線を取り付け、反対側を外部のアース端子に取り付けてください。

！ 警告

アース線はかならず第Ⅲ種接地をしてください。接地をしないと感電するおそれがあります。



2.6 AC アダプタの接続

！ 警告

かならず付属のACアダプタを使用してください。

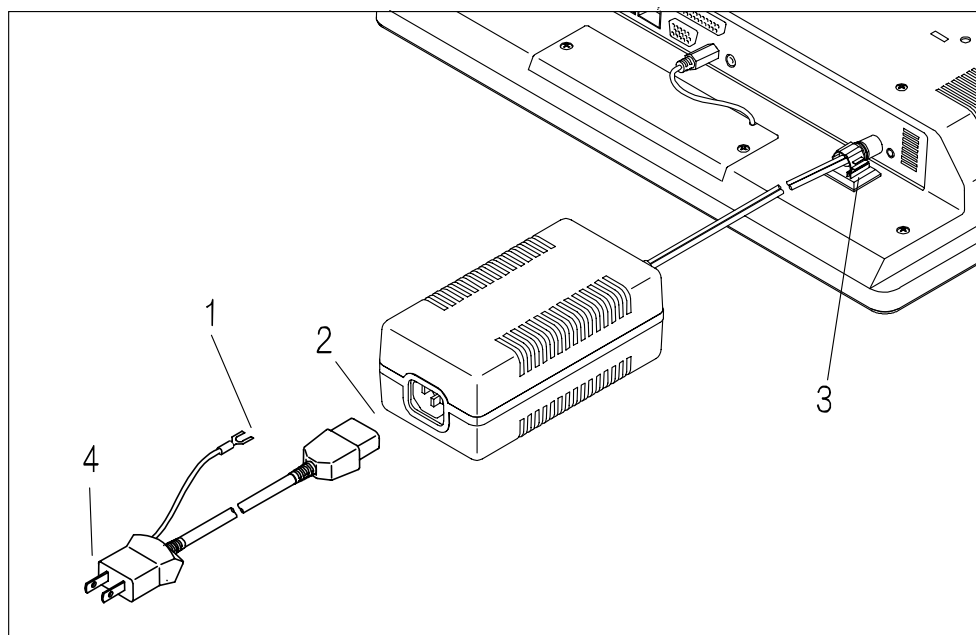
他のアダプタの使用は電圧・電流、極性が異なるため火災や故障の原因になります。

アース線はかならず接続してください。接続しないと感電するおそれがあります。

1. 電源プラグに付属のアース線をコンセントのアース端子に取り付ける
2. 電源コードを AC アダプタに接続する
3. DC プラグを本体の「DC IN」に差込む

DC プラグが抜けるのを防ぐため、かならずケーブルクランプでケーブルを固定してください。

4. 電源プラグをコンセントに差込む

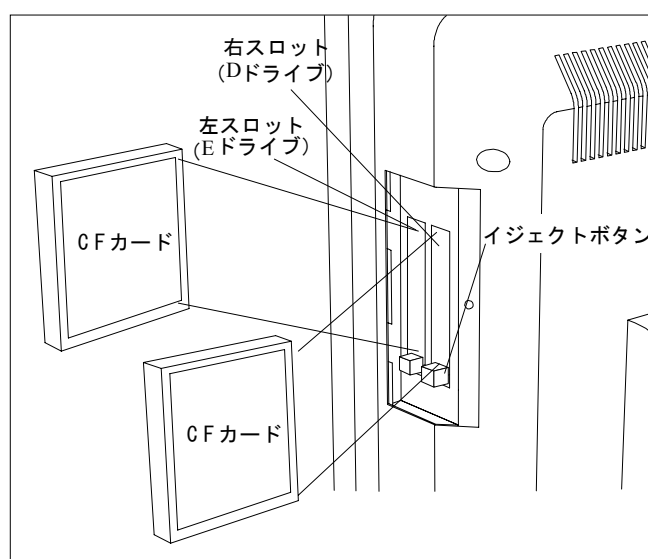


2.7 CF カードの装着

本装置の拡張CFカードスロットは2スロットあります。CFカードを1枚のみ使用する場合はどちらのスロットに指してもDドライブとして認識されます。

CFカードを2枚使用する場合、右スロットに挿入したカードはDドライブ、左スロットに挿入したカードはEドライブとして認識されます。

例：CF カードを2枚拡張ドライブに挿して使用する場合
のドライブ名割り当て



また、システムドライブのライトプロテクトが解除されている状態で（7ページ参照）一旦ドライブとして認識されたCFカードのドライブ名はそのデバイス情報と共にレジストリに保存されます。そのため、今後そのCFカードをどちらのスロットに挿しても同じドライブとして認識されます。（例：差し込んだときにEドライブと認識されたCFカードは、何処に差ししても今後Eドライブとして認識されるようになります。）

アドバイス

- 本装置にはオンボード CF カード以外 CF カードは付属していません。別途拡張 CF カードスロットから Sler 様のアプリケーションなど、別途データを読み出し、保存する必要がある場合には CF カードをご用意いただく必要があります。
- ライトプロテクトが解除された状態（7ページ参照）で本端末に同じドライブ名で認識された CF カード2枚をそれぞれスロットに挿して使用した場合、そのメディアは使用できない状態となります。

！ 注意

CF カード自体や記録データの破壊を防ぐため次のことを守ってください。

- CF カードの装着や取り外しは、本体の電源をOFFにしてから行う。
- 5V以外のCFカードは装着しない。

CF カードの装着

1. 本体の拡張 CF カードスロット用のカバーを外す
2. CF カードのコネクタ側からカードスロットに挿入し、しっかりと止まるまで押し込む

アドバイス

- CF カードを無理にスロットに入れないでください。CF カードがきちんと挿入されない場合は、カードの方向が正しいか、まっすぐ挿入されているか確認してください。
- 本製品の CF カードスロットは 5 V 専用です。他の規格の CF カードを装着すると故障の原因となりますので装着しないでください。

CF カードの取り出し

1. 本体の拡張 CF カードスロットのイジェクトボタンを押す
2. CF カードが手前に出てきたら指でつまんで手前に取り出す
3. 拡張 CF カードスロット用のカバーを装着する

2.8 電源の ON / OFF

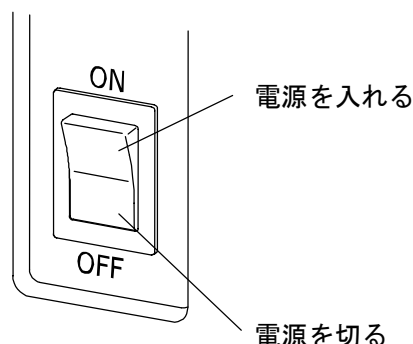
AC アダプタの接続が終わったら、本体の電源を入れます。

アドバイス

- 本製品の電源配線は、動力機器および動力線、入出力信号線とは 200mm 以上離して配線してください。
- 本製品を長時間使用しない場合は、電源を OFF にし、電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源の入れかた

本体左側の電源スイッチを ON 側にします。



電源の切り方

本製品はハードディスクを搭載していませんので、電源スイッチを OFF 側に操作するだけで安全に電源を切ることができます。

アドバイス

- 本製品はシステムにプロテクト（システム保護機能）を掛けた状態で出荷しています。出荷時の状態でシステムドライブにデータを書き込んだ場合（設定変更含む）、本体の電源を切ると同時に書き込んだデータは全て消去されます。
- 電源を切った後も書き込んだデータを保存しておくには、データを保存する前にシステムドライブのプロテクトを解除する必要があります。
- システムドライブのプロテクトが解除された状態では、Windows XP の通常のシャットダウン処理後に電源をお切りください。シャットダウン処理をしないで電源を切られた場合、システムドライブの中身が破壊される恐れがあります。

➡ C ドライブのプロテクト解除・再プロテクトの方法は7ページで説明しています。

2.9 タッチパネルの調整

電源を入れた後、タッチパネルをタッチすると、その場所にマウスポインタの矢印が表示されます。タッチした場所とマウスポインタの矢印が大きくずれている場合は、タッチパネルの調整が必要になります。

設定方法は付属の「Touch Panel (Serial)デバイスドライバユーザーズマニュアル」をお読みください。

アドバイス

- 温度や湿度によりタッチパネルの特性が変化することがあるため、タッチ位置とカーソルがずれている場合は調整を行ってください。

3 ネットワーク接続の設定

3.1 設定前のご注意

本製品は OS に Windows XP Embedded(SP1 対応)を採用していますので、ネットワーク接続の設定も基本的に Windows XP と同様の手順で行うことができます。

本製品は電源を入れると「Easy メニュー」が立ち上がる設定にしています。また、出荷時は C ドライブにプロテクト（システム保護機能）が掛けられており、書き込みができない状態になっています。

従って、ネットワーク接続の設定を行うには、「Easy メニュー」の終了と C ドライブのプロテクト解除が必要です。設定が終了したら、システム保護のため再度プロテクトをかけ直してください。

➡ 「Easy メニュー」の終了方法は31ページ、C ドライブのプロテクト解除・再プロテクトの方法は7ページで説明しています。

3.2 ネットワーク接続の設定

1. ローカルエリアネットワーク接続の設定

本製品は 10BASE-T/100BASE-TX に対応した LAN ポートを 2 ポート装備していますので、インターネットとイントラネットにポートを使い分けるなどの方法で利用することもできます。

アドバイス

- LAN ケーブルは別売です。
- 接続するネットワーク環境や、機器の規格にあった LAN ケーブルを用意してください。

1) LAN ケーブルの接続

1. 本製品の電源を切る
2. LAN ケーブルのプラグの向きに注意して、本体の LAN ポートに接続する
3. LAN ケーブルのもう一方のプラグを、ADSL モデムやハブなどネットワーク機器の LAN コネクタに接続する

2) LAN 接続の設定

LAN 接続の設定は、Windows XP の設定手順に従って行ってください。

警告

本製品の外部インターフェースを利用してワイヤレス LAN をお使いになる場合、医療機器に影響を与え、事故の原因となるおそれがあります。医療施設内でのワイヤレス LAN 使用に際しては各医療施設の指示に従ってください。

アドバイス

- ネットワークを使用している間は LAN ケーブルを本製品から取り外さないでください。

2. インターネット接続の設定

LAN 接続の設定が終了したら、ネットワーク環境に応じてインターネット接続の設定を行ってください。

設定は Internet Explorer の設定手順に従って行ってください。設定終了後に「web@Client」でのインターネット利用が可能になります。

3. メールアカウントの設定

インターネット接続の設定が終了したら、ネットワーク環境に応じてメールアカウントの設定を行ってください。

設定は、本製品に標準搭載の「P'e-Mail（簡単メーラ）」の設定手順に従って行ってください。



「P'e-Mail」の環境設定、利用方法については付属の「操作マニュアル（入門編、環境設定説明書、取扱説明書）」をお読みください。

4 周辺機器の接続

4.1 接続可能な周辺機器

本製品のインターフェース部には Sier 様が計画されているシステム構成にあわせて、さまざまな周辺機器を接続できます。

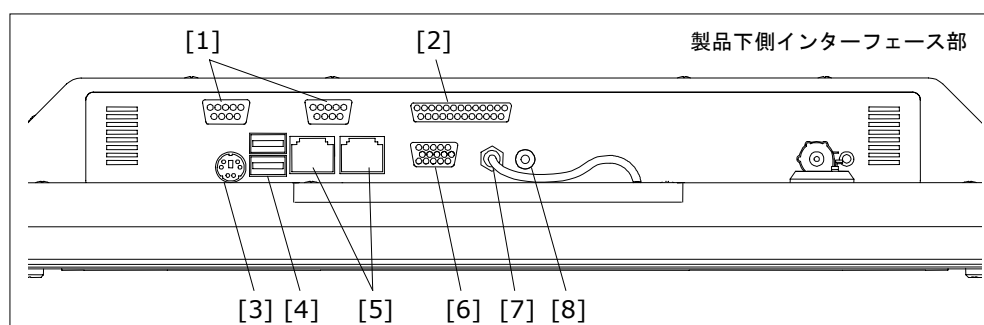
! 警告

外部スピーカやヘッドホンをステレオ出力に接続する場合は、OS 起動後ソフトウェアによるボリュームコントロールにてボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量で聴覚障害の原因となります。

! 注意

周辺機器を接続するときは、故障や感電事故を防ぐため次のことを守ってください。

- 本製品と周辺機器の電源を OFF にする。
- 本製品と周辺機器の電源コードをコンセントから抜く。



	インターフェース部	接続できる周辺機器等
[1]	シリアルポート	アナログモデム等
[2]	パラレルポート	プリンタ、スキャナ等
[3]	PS/2 ポート	キーボードとマウスを接続します (付属の専用 PS/2 分岐ケーブル使用)
[4]	USB ポート	CD-ROM ドライブ等
[5]	LAN ポート	10BASE-T/100BASE-TX のネットワーク接続に対応 LAN 用とインターネット用で独立して使用できます
[6]	ディスプレイ	外付けモニタ
[7]	ステレオ音声出力 (ミニピンジャック)	外部スピーカやヘッドホンを接続します (内蔵スピーカ接続済み)
[8]	マイク入力 (ミニピンジャック)	マイクを接続します

アドバイス

- 周辺機器、接続コード類はすべてオプションです。

4.2 周辺機器の取り付け/取り外し時の注意

周辺機器を利用する場合は、事前に本製品上での動作確認を行うことをお勧めします。

また、周辺機器によっては使用上の制限事項がある場合がありますので、周辺機器の取扱説明書をよく読み、正しい要領で取り付け/取り外しを行ってください。

アドバイス

- RS-232C やイーサネットのケーブルは電源ケーブルやその他の高圧線や動力線、入出力信号線とは 200mm 以上離して配線してください。
- RGB ケーブルやプリンタケーブルは電波妨害防止のためコア付きのケーブルを使用してください。

4.3 標準対応の周辺機器

標準仕様では以下の周辺機器に対応しています。

- USB マスストレージデバイスに対応している製品（CD-ROM、DVD-ROM、フラッシュメモリ、HDD、FDD）
- USB キーボード、USB マウス
- PS/2 キーボード、PS/2 マウス
- CF カード（8MB～512MB）

4.4 動作確認済み周辺機器一覧

項 目	メーカー	インターフェース	製品型番
FDD	TEAC	USB1.1	FD-305PU
CF カード	HAGIWARA SYS-COM	CF スロット	コンパクトフラッシュ Z シリーズ
無線 LAN	アイ・オー・データ	USB1.1	WN-B11/USB※
HDD	アイ・オー・データ	USB1.1	HDA-iU40
キーボード	ELECOM	USB1.1	TK-UP289MLG
マウス	ELECOM	USB1.1	M-N2URLG
USB HUB	ELECOM	USB1.1	UH-M4S
フラッシュメモリーカード	アイ・オー・データ	USB1.1	USB-32ED2
	BUFFALO	USB1.1	RUF-C32M

※ メーカー添付ドライバのインストールが必要

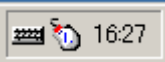
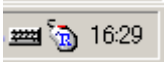
5 タッチパネルの操作方法

本装置付属のタッチパネルは画面を押すことでマウス操作の左クリック、画面を素早く2回押すことでマウス操作のダブルクリックと同様の動作をします。

また、特定操作を行うことでマウスの右クリック操作と同様の動作をすることができます。

5.1 タッチパネルの右クリックの有効化

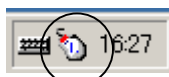
デスクトップ画面上にタスクバーが表示されている状態で画面右下のタスクトレイに格納されているマウス型のアイコンをクリックします。アイコンに表示されている文字がRに切り替わったら右クリックが有効になります。

左クリック有効時	右クリック有効時
	

この右クリックの有効状態はタッチパネルを一回押すことで解除され、基の左クリック有効状態（この時アイコンに表示されている文字はLになります。）になります。

[右クリックを使用したソフトキーボードの終了例]

①マウス型のアイコンをクリックします。



②マウス型のアイコンの表示文字が“R”に切り替わったことを確認します。

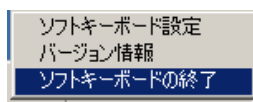


③タスクトレイにあるキーボードアイコンをクリックします。



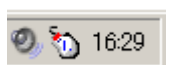
④右クリックが有効になり、ソフトキーボードのメニューが表示されます。

この後 再び左クリックが有効になります。



⑤メニューで「ソフトキーボードの終了」を選択します。

⑥タスクトレイからキーボードアイコンが消えます。



アドバイス

- タッチパネル操作の詳細な設定につきましては付属のタッチパネルドライバのマニュアルを参照ください。

6 標準搭載ソフトウェアを使う

6.1 ランチャー

1. 搭載ソフトウェアについて

本製品にはランチャーアプリケーション「Easy メニュー（ランチャ）」がインストールされており、電源を入れると、最初に「Easy メニュー」画面が表示されます。

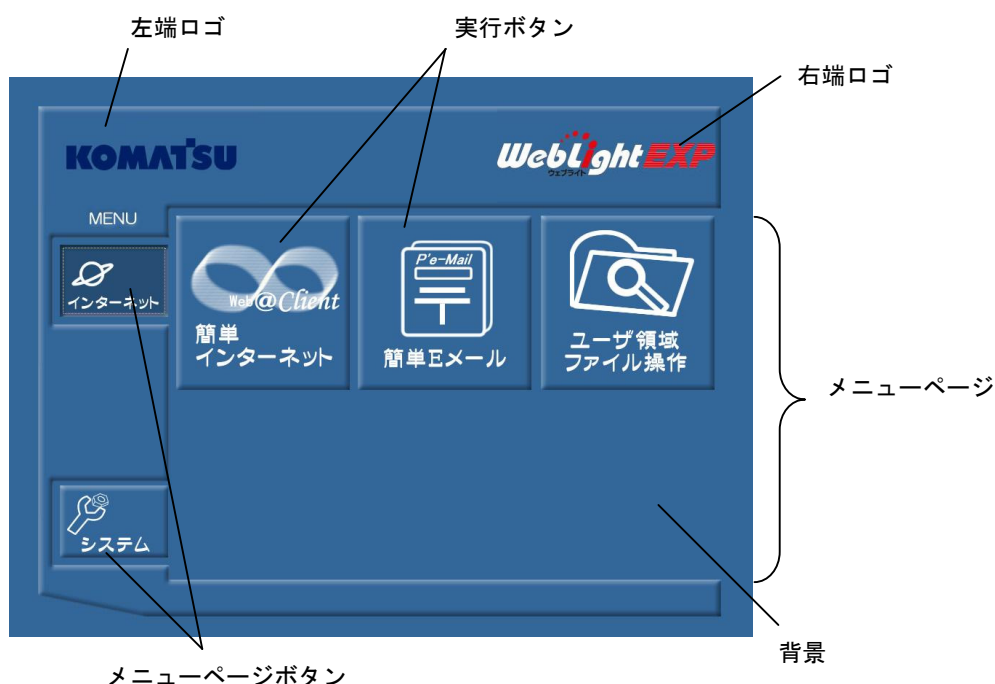
「Easy メニュー」画面上には標準で使用するアプリケーションのボタンがすでに登録されていますので、ボタンをクリックするだけでご希望のアプリケーションを起動させることができます。

また、Sler 様が計画されているシステムに合わせて「Easy メニュー」にアプリケーションを登録したり、画面をカスタマイズしたりすることが可能です。

アドバイス

- P Loader の設定ファイルの変更(35ページ参照)により、Easy メニューを起動しないように設定することができます。

「Easy メニュー」画面



名 称	機 能
左端ロゴ	任意のロゴを表示可能です。
実行ボタン	あらかじめ登録しておいたアプリケーションを起動します。
右端ロゴ	任意のロゴを表示可能です。
メニューページ	実行ボタンを配置したページです。
メニューページボタン	メニューページを切り換えます。

2. 「Easy メニュー」のカスタマイズ

実行ボタンへのアプリケーションの登録やボタン画像等の変更は、「システム」メニューページの「ランチャー設定」から行います。

「Easy メニュー」のカスタマイズを行うには、いったん「Easy メニュー」を終了させ、C ドライブのプロテクトを解除する必要があります。

1) 「Easy メニュー」を終了する



2) C ドライブのプロテクトを解除する



3) 「Easy メニュー設定」を起動する

Cドライブのプロテクト解除を行い、「Easy メニュー」が起動したら、「Easy メニュー設定」を起動します。

1. 「Easy メニュー」のメニューページボタンから「システム」ボタンをクリックし、「システム」メニューページを表示させる
2. 「ランチャー設定」ボタンをクリックする

「Easy メニュー設定」画面が表示されます。




タブ / ボタン名称	機 能
「システムデザイン」タブ	背景、左端ロゴ、右端ロゴの設定を行います。
「メニューページボタン」タブ	メニューページボタンに使用する画像ファイルの登録を行います。「Easy メニュー」にはメニューページボタンを最大4つまで登録可能です。
「実行ボタン」タブ	実行ボタンに使用する画像ファイルの登録や、関連付けするアプリケーションの登録を行います。実行ボタンは1つのメニューページに最大6個まで登録可能です。
外部アプリ起動後終了あり	実行ボタンからアプリケーションを起動した時点で「Easy メニュー」を終了させます。
標準設定に戻す	「Easy メニュー」の設定を購入時の状態に戻します。
相対パス変換	登録したファイルの絶対パスを、「Easy メニュー」のアプリケーション保存場所からの相対パスに変換します。
取り消し	変更した内容を反映させずに設定画面を閉じたいときには、このボタンをクリックします。
決定	設定がすべて終了したらこのボタンをクリックします。変更内容は「Easy メニュー」の再起動後に反映されます。

4) 「Easy メニュー」の設定を変更する


背景

「システムデザイン」タブの「背景」に、表示させたい画像ファイルのパス名を入力します。

パス名がわからない場合は、右の  ボタンをクリックして「ファイルを開く」ダイアログボックスを表示させ、そこから画像ファイルを指定してください。


左端ロゴ

「システムデザイン」タブの「左端ロゴ」に、表示させたい画像ファイルのパス名を入力します。

右の  ボタンから指定することも可能です。

右端ロゴ

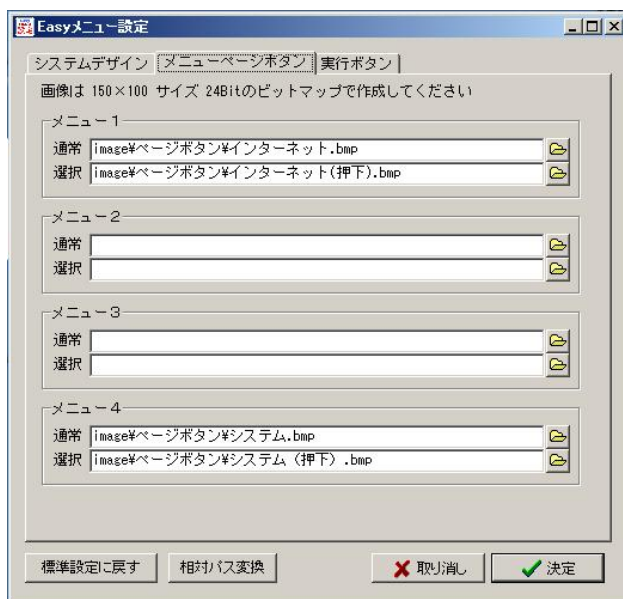
「システムデザイン」タブの「右端ロゴ」に、表示させたい画像ファイルのパス名を入力します。


右の  ボタンから指定することも可能です。


メニューページボタン

「メニューページボタン」タブを選択します。

それぞれのメニューページに使用するボタンの設定画面になります。



「通常」にはクリック前のボタンに使用する画像ファイルのパス名を入力します。右の  ボタンから指定することも可能です。

「選択」にはクリック後のボタンに使用する画像ファイルのパス名を入力します。右の  ボタンから指定することも可能です。

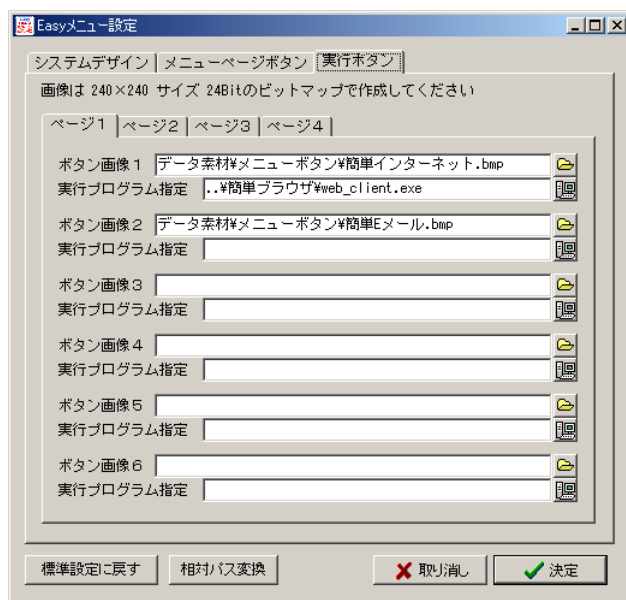
アドバイス


- メニューページボタンに画像ファイルを登録しなければ、ボタンは表示されず、エンドユーザは、そのメニューページを選択できなくなります。


実行ボタン

「実行ボタン」タブを選択します

それぞれのメニューページごとに登録する実行ボタンの設定画面になります。



「ボタン画像」には実行ボタンに使用する画像ファイルのパス名を入力します。右の  ボタンから指定することも可能です。

「実行プログラム指定」には実行ボタンに関連付けするプログラムのパス名を入力します。右の  ボタンから指定することも可能です。また、DOSのコマンドラインのようにプログラム以下にスペースで区切ってパラメータの記述を行うことも可能です。

「Easy メニュー」で使用可能な画像データについて


各種ボタンやロゴの画像は以下の仕様で作成してください。

種 類	画像サイズ（タテ×ヨコ） ピクセル	ファイル形式
背景	1024×768	24 ビット BMP または JPEG
左端ロゴ	180×80	
右端ロゴ	250×100	
メニューページボタン（通常・選択共）	150×100	24 ビット BMP
実行ボタン	240×240	

5) 「Easy メニュー設定」を終了する

すべての設定が終了したら、「決定」ボタンを押して「Easy メニュー設定」を終了させます。変更内容は次回「Easy メニュー」を起動したときに反映されます。

6) C ドライブの再プロテクトを行う

 C ドライブのプロテクト解除・再プロテクトの方法は7ページで説明しています。

6.2 自動起動プログラムの設定

1. 搭載ソフトウェアについて

本製品には自動起動プログラム「P_LOADER(自動起動プログラム)」がインストールされています。P_LOADER は設定ファイルを読み込み、この設定ファイルの内容に基づき指定したプログラムを順次実行していくアプリケーションソフトウェアです。P_LOADER を使用すれば、システムドライブの書き込み禁止設定を変更しなくても、自動起動するアプリケーションを登録することができます。

また、この自動起動プログラムに読み込ませる設定ファイルは P_LOADER エディタで作成することができます。

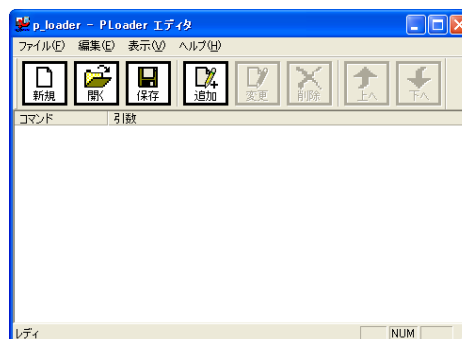
アドバイス

- EasyMenu の電源起動時からの実行に関しては初期の P_LOADER 設定ファイルに設定されています。Sler 様で作成された設定ファイルを読み込ませたい場合は、次の設定ファイル
.....を変更するか又は拡張 D ドライブとして
用意した CF カードに設定ファイルを保存してください。詳細は「3. P_LOADER の実行」
(40ページ参照)のチャート図を参照ください。

2. P_LOADER の設定ファイルの書き方

- 用意するもの

P_LOADER エディタ



P_LOADER エディタで、設定ファイルを作成します。.....

コマンドには、実行命令を指定していきます。コマンドごとに指定するものが違うので注意してください。コマンドは下記の種類があります。

コマンド名	動作
P_EXE	プログラムを実行する。
P_COPY	ファイルまたはフォルダをコピーする
P_REG	レジストリの内容を書き換える。
P_DELETE	ファイルまたはフォルダを削除する。
P_WAIT	プログラムの実行に待ち時間を入れる。
P_CD	カレントフォルダを変更する。
P_END	設定ファイルの読み込みを終了する。



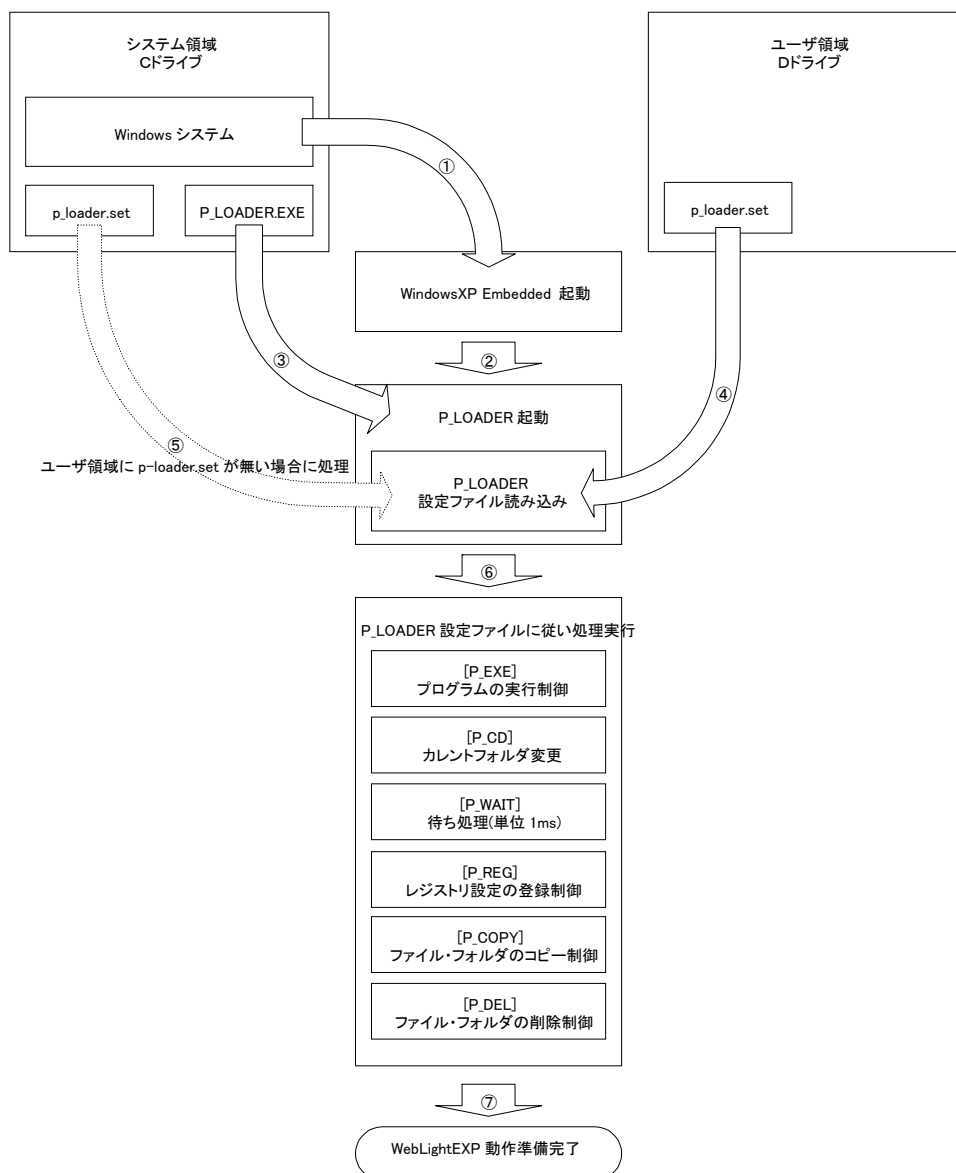






3. P_LOADERの実行

起動時に自動的に実行されます。下図はP_LOADERの処理の流れです。




6.3 ホームページの閲覧

1. 搭載ソフトウェアについて

本製品には Internet Explorer と、容易に使用可能な「web@Client（簡単ブラウザ）」がインストールされています。

「web@Client」はパソコンに不慣れなエンドユーザでも簡単にインターネットを楽しめる、簡単操作のインターネットブラウザです。画面に表示されたボタンをクリックするだけでインターネットに接続し、ホームページの閲覧ができます。

 インターネットを利用するには、あらかじめインターネット接続の設定が必要になります。インターネット接続の設定については26ページで説明しています。

2. 利用上の注意事項

ホームページの閲覧に使用するブラウザはエンドユーザの個人情報を記録しています。そのため不特定多数のエンドユーザが1台の端末を利用する環境では、次のような問題の発生が予想されますので、Sler 様側で予防策を盛り込んだシステム運用をされると同時に、エンドユーザにも個人情報の管理を徹底させてください。

- 閲覧履歴を第三者に見られることによるプライバシーの侵害。
- 登録した ID やパスワードを第三者に盗まれ、悪用されるおそれ。

アドバイス

- コンピュータウィルスに対しても十分な予防策を講じたシステム運用を行ってください。

3. 「web@Client」の起動

1. 「Easy メニュー」のメニューページボタンから「インターネット」ボタンをクリックし、「インターネット」メニューページを表示させる
2. 「簡単インターネット」ボタンをクリックする

「web@Client」画面が表示されます。

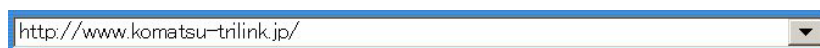



操作ボタン

ボタン名称	機 能
終了	「web@Client」を終了します。
ホーム	あらかじめ登録されたページを表示します。
戻る	直前に表示したページに戻ります。
進む	「戻る」ボタンをクリックする前に表示したページを再度表示します。
停止	ページの読み込みを停止します。
更新	現在表示されているページを更新します。
お気に入り	よく利用するページの登録・呼び出しができます。
表示	アドレスバーに入力したページを表示します。

注) ここではインターネットのホームページやCFカードに保存してあるHTMLファイルを総称して「ページ」と呼んでいます。

アドレスバー



表示したいページのアドレス(URL)を入力します。右の履歴ボタンをクリックすると、アドレスバーに入力したアドレス(URL)の履歴が表示されます。

4. 閲覧するページの指定

ページの指定は次のいずれかの方法で行います。

- ・ 画面に表示されているページのリンクをクリックする
- ・ 「アドレスバー」に目的のページのアドレス(URL)を入力し、「表示」ボタンをクリックする
- ・ 「お気に入り」に登録したページのリストから目的のページを選択し、ダブルクリックする

5. 「web@Client」上での文字入力

アドレス(URL)の入力やその他の文字入力は画面に表示されたソフトウェアキーボードと外付けキーボードのいずれから行うことができます。

➡ ソフトウェアキーボードを使った入力は53ページで説明しています。

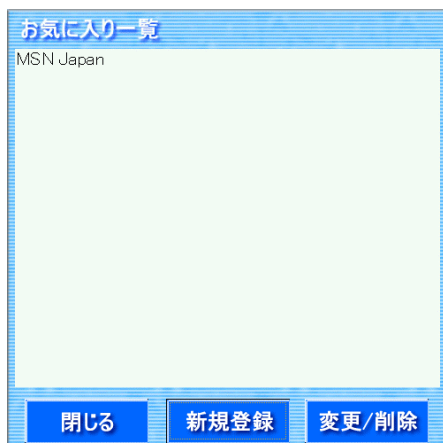
6. 「お気に入り」の利用

よく利用するページは、「お気に入り」ボタンをクリックすると表示される、「お気に入り一覧」に登録しておくことで、いつでもページを呼び出すことができます。

ページの登録

1. 「お気に入り」ボタンを押す

「お気に入り一覧」ウィンドウが表示されます。



2. 「お気に入り一覧」ウィンドウにある「新規登録」ボタンをクリックする

「お気に入り編集」ウィンドウが表示されます。

3. 名前を入力する

「名前」部分には現在表示中のページの名前（タイトル）が表示されていますので、変更したい場合は新しい名前を入力します。

ここで入力された名前が「お気に入り一覧」に表示されます。

4. アドレスを入力する

「アドレス」部分には現在表示中のページのアドレス(URL)が表示されています。通常は変更の必要はありません。この部分に別のアドレス(URL)を入力することで、表示中のものとは別のページを登録することもできます。

5. ページを登録する

「登録」ボタンをクリックすると、「お気に入り一覧」にページが登録されます。

変更した内容を反映させずに編集画面を閉じたいときには、「キャンセル」ボタンをクリックします。

6. 「閉じる」ボタンをクリックして、「お気に入り一覧」を閉じる

ページの変更

1. 「お気に入り」ボタンを押す

「お気に入り一覧」ウィンドウが表示されます。

2. 「お気に入り一覧」の中から変更したいページの名前をクリックして選択する

3. 「変更/削除」ボタンをクリックする

4. 「お気に入り編集」に表示されている情報を変更する

5. 「更新」ボタンをクリックする

変更内容が登録されます。変更した内容を反映させずに編集画面を閉じたいときには、「キャンセル」ボタンをクリックします。

6. 「閉じる」ボタンをクリックして、「お気に入り一覧」を閉じる

ページの削除

1. 「お気に入り」ボタンを押す

「お気に入り一覧」ウィンドウが表示されます。

2. 「お気に入り一覧」の中から削除したいページの名前をクリックして選択する

3. 「変更/削除」ボタンをクリックする

4. 「お気に入り編集」に表示されている情報が、削除したいページのものか確認する

間違っって別のページを選択していた場合は「キャンセル」ボタンをクリックし、再度削除したいページを選択します。

5. 「削除」ボタンをクリックする

「お気に入り一覧」の中から選択したページが削除されます。

6. 「閉じる」ボタンをクリックして、「お気に入り一覧」を閉じる

ページの呼びだし

1. 「お気に入り」ボタンを押す

「お気に入り一覧」ウィンドウが表示されます。

2. 「お気に入り一覧」の中から、目的のページの名前をダブルクリックする

目的のページがブラウザに表示されます。

7. 「web@Client」の設定

「ホーム」や「お気に入り」の一覧情報を保存するファイルの指定や、ボタンの表示設定等は、「Easy メニュー」の「システム」メニューページにある「簡単インターネット設定」から行います。

設定を行うには、いったん「Easy メニュー」を終了させ、C ドライブのプロテクトを解除する必要があります。

1) 「Easy メニュー」を終了する

➡ 「Easy メニュー」を終了する方法は31ページで説明しています。

2) C ドライブのプロテクトを解除する

➡ C ドライブのプロテクト解除・再プロテクトの方法は7ページで説明しています。

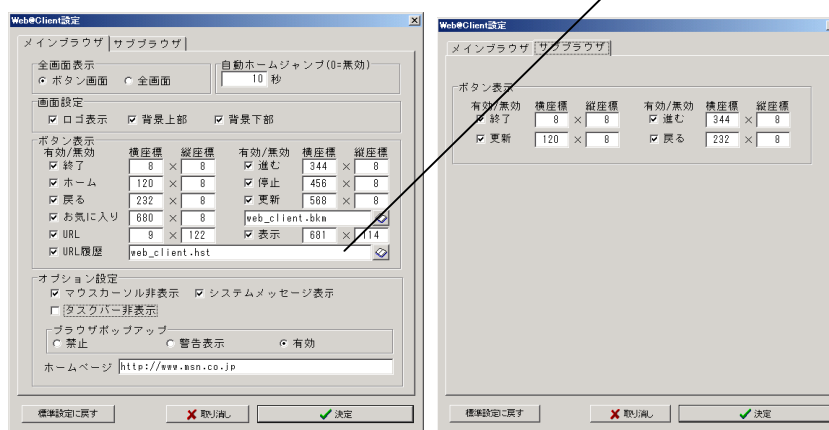
3) 「web@Client 設定」を起動する

Cドライブのプロテクト解除を行い、再び「Easy メニュー」が起動したら、「web@Client 設定」を起動します。

1. 「Easy メニュー」のメニューページボタンから「システム」ボタンをクリックし、「システム」メニューページを表示させる
2. 「簡単インターネット設定」ボタンをクリックする

「web@Client 設定」画面が表示されます。

お気に入り一覧
ファイルの設定



4) 「web@Client」の設定を変更する

1. メインブラウザ

全画面表示

ボタン画面

「web@Client」画面に操作ボタンを表示します。標準ではこの設定になっています。

全画面

操作ボタンを表示させずに、ページだけを表示します。操作ボタンを全て無効にしたいときは、こちらに設定します。「web@Client」を終了させるときは、外付けキーボードから [Ctrl] + [Alt] + [Delete] キーを同時に押し、強制終了します。

自動ホームジャンプ

「web@Client」を操作しない状態が一定時間以上続くと、あらかじめ「ホーム」に登録しておいたページに戻るよう設定できます。戻るまでの時間は1秒単位で設定できます。

画面設定

ロゴ表示

「web@Client」のロゴを表示します。

背景上部

ボタン下の背景を表示します。

背景下部

アドレス下の背景を表示します。

ボタンの表示

有効/無効

操作ボタンを表示させたいときはチェックを付けます。表示させないときはチェックをはずします。

横座標/縦座標

操作ボタンの表示位置を設定します。操作ボタンの左上の座標を入力します。

お気に入り一覧ファイルの設定

お気に入り一覧の情報を保存するファイル（テキスト形式、拡張子 bkm）を指定します。

アドバイス

- エンドユーザが「お気に入り」機能を利用して継続的に希望のページを追加するには、お気に入り一覧ファイルの保存場所を拡張 CF カードに設定する必要があります。

URL 履歴一覧ファイルの設定

URL 履歴一覧の情報を保存するファイル（テキスト形式、拡張子 hst）を指定します。

アドバイス

- エンドユーザが「URL 履歴」機能を継続的に利用するには、URL 履歴一覧ファイルの保存場所を拡張 CF カードに設定する必要があります。

マウスカーソル非表示

画面上のマウスカーソルを非表示にしたいときはチェックを付けます。表示させるときはチェックをはずします。マウス非表示はホームページペインでは無効となります。

システムメッセージ表示

警告などのポップアップダイアログの表示を行います。

タスクバー非表示

Windows タスクバーを非表示にする場合にチェックします。

ブラウザポップアップ（サブブラウザ表示）

ポップアップウィンドウ表示（サブブラウザ表示）を有効にした場合、コンテンツ内からポップアップウィンドウが開かれることを有効にします。

ポップアップウィンドウ表示を禁止した場合は、コンテンツ内からポップアップウィンドウは開かれませんが、あ



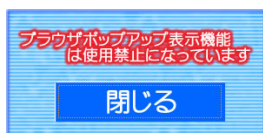
ポップアップウィンドウ(サブブラウザ)表示有効

禁止

ブラウザポップアップ表示を禁止します。

警告表示

ブラウザポップアップ表示に対し警告メッセージを表示します。



ホームページ

「web@Client」を起動したとき、最初に表示されるページのアドレス（URL）を指定します。
「自動ホームジャンプ」機能は、ホームページと現在のページの比較により実行されます。

2. ポップアップウィンドウ（サブブラウザ）

ボタンの表示

有効/無効

操作ボタンを表示させたいときはチェックを付けます。表示させないときはチェックをはずします。

横座標/縦座標

操作ボタンの表示位置を設定します。操作ボタンの左上の座標を入力します。

3. メインブラウザ／ポップアップウィンドウ(サブブラウザ)共通

標準設定に戻す

変更した内容をすべて取消して、標準の設定に戻したいときには、このボタンをクリックします。

決定ボタン

変更した内容を反映させ設定画面を閉じたいときには、このボタンをクリックします。

取り消しボタン

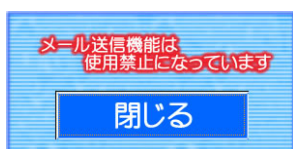
変更した内容を反映させずに設定画面を閉じたいときには、このボタンをクリックします。

5) 「web@Client 設定」を終了する

すべての設定が終了したら、「決定」ボタンを押して「web@Client 設定」を終了させます。変更内容は次回「web@Client」を起動したときに反映されます。

6) 「メーラ呼び出し禁止機能」を設定する

ブラウザからメーラの呼び出しを禁止する場合は、「Easy メニュー」を終了して、デスクトップ画面からマイコンピュータを選択しツールバーの「ツール」→「フォルダオプション」→「ファイルの種類」から「URL:MailTo Protocol」を選択し、「詳細設定」をクリックします。「Mail Kick」を選択後、「既定に設定」をクリックすることで、メーラを呼び出した場合に警告のダイアログを表示する事が出来ます。



➡ 「Easy メニュー」を終了する方法は31ページで説明しています。

7) C ドライブの再プロテクトを行う

➡ C ドライブのプロテクト解除・再プロテクトの方法は7ページで説明しています。

8. ブラウザ機能のサポートについて

「web@Client」は Internet Explorer をベースに開発されています。

本製品にインストールされている Internet Explorer は最小構成版のため、一部サポートされていない機能があります。

サポートしている機能は以下のとおりです。

- The Internet Explorer DHTML プラットフォーム
- Full CSS Level 1 サポート
- Full DCOM Level 1 サポート
- Microsoft XML (MSXML) 3.0
- HTML4.0
- Jscript(JavaScript 互換)
- Visual Basic Script
- Microsoft Shockwave Flash

6.4 インターネットメールの利用

1. 搭載ソフトウェアについて

本製品には容易に使用可能な「P'e-Mail【別名：VIPSTATION】（簡単メーラ）」がインストールされています。

「P'e-Mail」は、「キーボードからの入力」、「タッチパネルからの手書き入力」、「キーボード/手書き混合入力」に対応している他、メール文書中には使用できない半角カナ文字のチェックを自動で行いますので、初心者からすでに別のメーラに慣れているエンドユーザまで手軽に利用することができます。

また、キーボードからのパスワード入力の他に、手書きサインによるユーザ認証にも対応していますので、複数のエンドユーザが同時に「P'e-Mail」を利用しても個人情報を保護することが可能です。

「P'e-Mail」の環境設定、利用方法については付属の「操作マニュアル（入門編、環境設定説明書、取扱説明書）」をお読みください。

ここでは、「Easy メニュー」からの「P'e-Mail」の起動方法と機能の概要についてのみ説明します。

アドバイス

- 手書き入力を行う場合はオプションの「専用タッチペン」、および「保護シート」の使用をおすすめします。

➡ メールを利用するには、あらかじめインターネット接続の設定が必要になります。インターネット接続の設定については26ページで説明しています。

➡ ソフトウェアキーボードを使った入力は53ページで説明しています。

2. 利用上の注意事項

インターネットメールに使用するメーラはエンドユーザの個人情報を記録しています。そのため不特定多数のエンドユーザが1台の端末を利用する環境では、次のような問題の発生が予想されますので、Sler 様側で予防策を盛り込んだシステム運用をされると同時に、エンドユーザにも個人情報の管理を徹底させてください。

前のユーザのメールアカウントが設定されたままの状態、次のユーザが使用を開始した場合は、

- 前のユーザ宛のメールが次のユーザに届く問題。
- 前のユーザ宛のメールを次のユーザが見ることによるプライバシーの侵害。
- 前のユーザになりすまして次のユーザがメールを送信することによる問題。

前のユーザのメールや、送受信の記録、アドレス帳等のデータが残っていた場合は、

- 消し忘れたメールを第三者が見ることによるプライバシーの侵害。
- 前のユーザになりすまして次のユーザがメールを送信することによる問題。

などの発生が予想されます。

本製品に付属の「P'e-Mail」には「全記録削除」の機能があり、これを使うことでメールアカウント、送受信の記録、アドレス帳等のデータを一括して消去することができます。本製品の利用

を終了するにはエンドユーザ自身がこの「全記録削除」作業を行う必要があります。

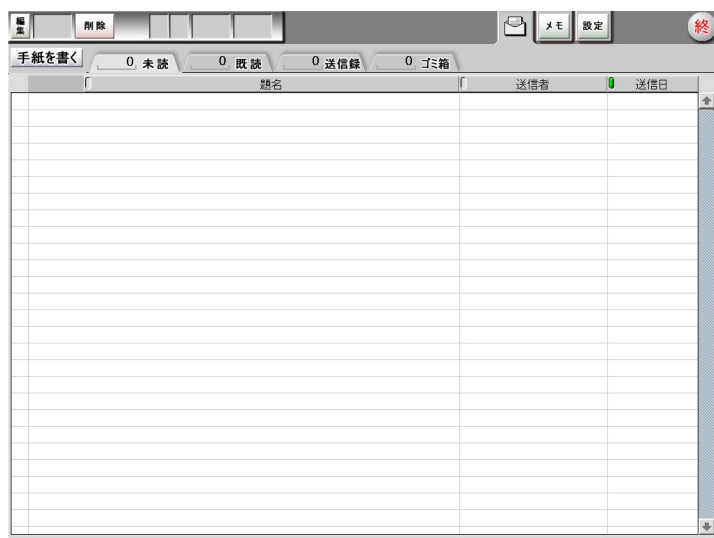
アドバイス

- コンピュータウィルスに対しても十分な予防策を講じたシステム運用を行ってください。

3. 「P'e-Mail」の起動

1. 「Easy メニュー」のメニューページボタンから「インターネット」ボタンをクリックし、「インターネット」メニューページを表示させる
2. 「簡単 E メール」ボタンをクリックする

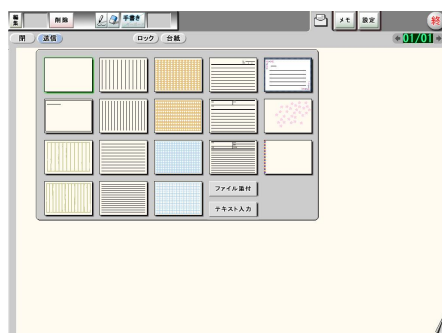
「P'e-Mail」画面が表示されます。



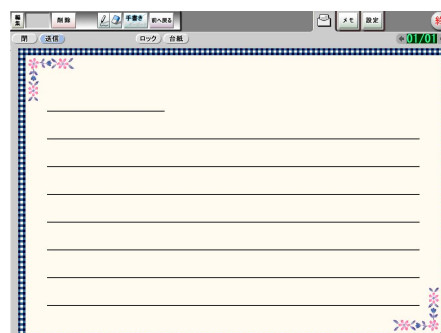
4. 「P'e-Mail」の機能紹介

手書きメール機能

キーボードに不慣れなエンドユーザや手書きで気持ちを伝えたい場合など、タッチパネルから手書き入力を行い、メール（画像ファイル）としてを送信できます。



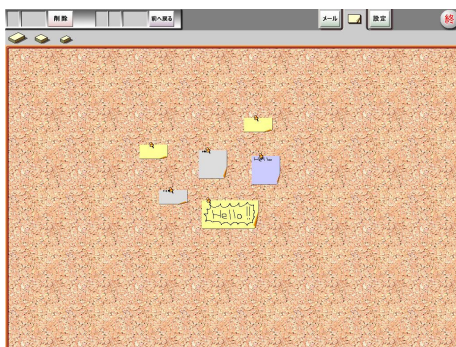
メール用テンプレート選択画面



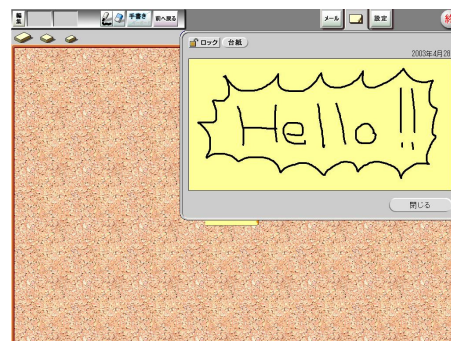
手書き入力テンプレート例

メモ機能

メールと同様の入力方法でエンドユーザ自身のメモを管理できます。



メモ管理画面



メモ閲覧画面

6.5 文字の入力

1. 搭載ソフトについて

本製品には弊社独自のソフトウェアキーボード

- ①ソフトキーボード・・・・・・・・Alternative Keyboard.exe

(ブラウザでのアドレス(URL)入力やメールでの文字入力等を行うことができます。)

- ②テンキーボード・・・・・・・・Tenkeybd.exe

(会計処理等、数値入力のみ必要なシーンでテンキー入力を行うことができます。)

がインストールされており、画面に表示されるソフトウェアキーボードを使用してキー入力を行うことができます。

➡ 「ソフトキーボード」の主な内容については56ページ以降、また「テンキーボード」の主な内容については64ページ以降で説明しています。

また、上記キーボードを制御するためのソフトウェアとして

- ③キーボードボタン(WebToolXPe)・・・・・・・・WebToolXPe.exe

(指定キーボードの表示非表示をボタンの ON/OFF で制御することができます)

- ④キーボード制御用 Activex コンポーネント・・・・・・・・Kbd.dll

(HTML などのスクリプトからキーボードを制御できます。)

もインストールされており必要なシーンに応じたキーボードの制御が可能になっています。

➡ 「キーボードボタン」の主な内容は54ページ以降、「ActiveX コンポーネント」の主な内容については69ページ以降で説明しています。

アドバイス

- 日本語入力の詳細設定は、Microsoft IME 2002 のプロパティ設定で行えます。
- 「簡単キーボード」は、Microsoft IME 2002 の入力設定が「かな入力」のときは利用できません。
- ソフトウェアキーボードご利用の際は IME2002 の設定はツールバーの表示、非表示の設定以外、変更せずに使用してください。(その他は初期設定のまま使用してください。)
- ソフトウェアキーボードを使用する場合は「コントロールパネル」-「画面のプロパティ」-「効果」-「デザイン」-「ドラッグ中にウィンドウ内容を更新する」設定を変更せずに使用ください。
- IME2002 の設定を変更しソフトウェアキーボードが正常に動作しなくなった場合、IME2002 を初期設定に戻す必要があります。IME2002 を初期設定状態に戻すには、「Microsoft IME スタンダードのプロパティ」の「全般」タブをクリックし、「標準に戻す」ボタンをクリックしてください。
- ソフトキーボードを市販の外付けキーボードと同時に使用しないでください。同時操作をすると CapsLock や NumLock、入力モードが表示画面と違う動作をする場合があります。



2. ソフトウェアキーボードの表示・非表示

「キーボードボタン【WebToolXPe.exe】」※にあるキーボードのイラストをクリックすることで指定キーボードを表示／非表示を切り替えることができます。

（デフォルトでは表示する指定キーボードはソフトキーボードになっています。表示する指定キーボードを変更する必要がある場合、後述の「キーボードボタン(WebToolXPe)の設定とその変更（54ページ）」で設定を変更してしてください。）

※「キーボードボタン」（以後本マニュアルではこのキーボードボタンのことを WebToolXPe と呼びます。）

指定キーボードの表示状態とアイコン画像の関係

指定キーボード非表示	指定キーボード表示
	

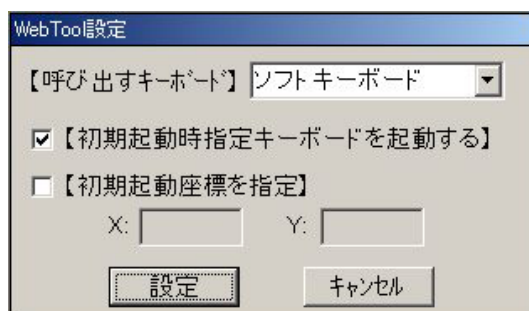
アドバイス

- 各ソフトウェアキーボードの「入力終了」、「Close」ボタンをクリックしてもソフトウェアキーボードを非表示にすることができます。
- 表示する指定キーボードが起動していない場合、キーボードボタンを押してもキーボードは表示されません。
- ActiveX コンポーネントを用いてブラウザ上からキーボードを非表示にすることもできます。

3. キーボードボタン(WebToolXPe)の設定とその変更

WebToolXPe には「表示切替を行うキーボードの変更」、「初期起動座標を指定」、などの設定がありその設定を変更することができます。





設定項目	設定内容
呼び出すキーボード	プルダウンメニューから WebToolXPe をクリックした際に呼び出すキーボードを選択します。 ソフトキーボードを表示する場合は「ソフトキーボード」を、 テンキーボードを表示する場合は「テンキーボード」をどちらか選択します。 デフォルトでは表示するソフトウェアキーボードは「ソフトキーボード」になっています。
初期起動時指定キーボードを起動する	この項目にチェックを入れると、WebToolXPe の起動時（WebToolXPe.exe の実行時）に【呼び出すキーボード】で指定したソフトウェアキーボード（ソフトキーボード or テンキーボード）を起動することができます。 デフォルト設定では、この項目は有効となっています。
初期起動座標を指定	この項目にチェックを入れると、WebToolXPe の起動時（WebToolXPe.exe の実行時）に WebToolXPe アイコンを初期表示する位置を変更することができます。 「X:」、「Y:」に入力した値の座標に WebToolXPe アイコンが初期表示されます。 デフォルト設定では、この項目は無効となっています。

アドバイス

- 座標位置を指定する場合、WebToolXPe が画面内に収まらない場合、表示位置が画面内に収まるよう自動的に位置調整されます。



4. キーボードボタン（WebToolXPe）のアクション画像変更

WebToolXPe ではデフォルトで使用しているビットマップ画像以外のビットマップ画像を取り込むことでオリジナルのアクションボタン(ON,OFF)を表示することができます。

- 読み込ませるビットマップ画像を次のファイル名で WebToolXPe が存在している階層又は、設定ファイルを特別に別階層から読み出している場合は設定ファイルを読み込む予定の階層（引数による設定情報の読み出し・保存先の指定(67ページ)参照）に保存します。
 ボタン ON 時のビットマップ OemOn.bmp
 ボタン OFF 時のビットマップ OemOff.bmp
- WebToolXPe を起動します。

3. タイトル部分に「移動バー」と表示され、ボタンのアクション部分に読み込ませたビットマップ画像が表示されます。ボタンの移動はウィンドウのタイトルバーで行います。（※タイトル部分を消すことはできません。）

例：

キーボード非表示 (OemOff.bmp)	キーボード表示 (OemOn.bmp)
	

5. ソフトキーボード(Alternative Keyboard.exe)の機能とキー配列

エンドユーザは、次の2つのキーボードから自分の好みに合ったキーボードを必要に応じてタブ切り替えで画面に表示して、文字入力を行うことができます。

- ① 「簡単キーボード」：50音配列のキーボード。パソコンに不慣れなエンドユーザ向け
- ② 「106キーボード」：市販の106キーボードとほぼ同じキー配列。パソコンのキーボードに慣れたエンドユーザ向け

ソフトキーボード表示例：



アドバイス

- 簡単キーボードのテンキー部の「/」・「*」・「-」・「+」は常に半角入力となります。

(1) ソフトキーボードのマップ切り換え

キーボード上部のタブをクリックすることで「簡単キーボード」と「106キーボード」を切り換えることができます。



(2) ソフトキーボード表示場所の移動



[▼] キーで画面の下、[▲] キーで画面の上に移すことができます。

キーボード上部のバーを押さえながらドラッグすると自由に移動することができます。

(3) ソフトキーボード表示サイズの変更

ソフトキーボードの表示サイズは大中小3つのサイズを用意しております。

簡単キーボードの場合  キーでサイズを縮小、 キーでサイズを拡大することができます。

106キーボードの場合  キーでサイズを縮小、 キーでサイズを拡大することができます。

(4) ソフトキーボードの非表示

「簡単キーボード」選択時は [入力終了] キーをクリックすることで、「106キーボード」選択時は [Close] キーをクリックすることでキーボードを非表示にすることができます。

(5) ソフトキーボードのキー配列とその機能

① 「簡単キーボード」


英数字の入力は「英数キーボード」で行い、日本語の入力は「ひらがなキーボード」と「カタカナキーボード」で行います。

エンドユーザはキーボード左端の [英数]、[かな]、[カナ] キーを押すことでキーボードを切り換えて文字入力を行います。






「英数キーボード」、「ひらがなキーボード」、「カタカナキーボード」に共通のキー機能について説明します。



定例句の入力を行うためのキー郡です。選択したキーに対応する定例句が入力されます。

キー名称	機能
	定例句 (http://, .html など) を入力します

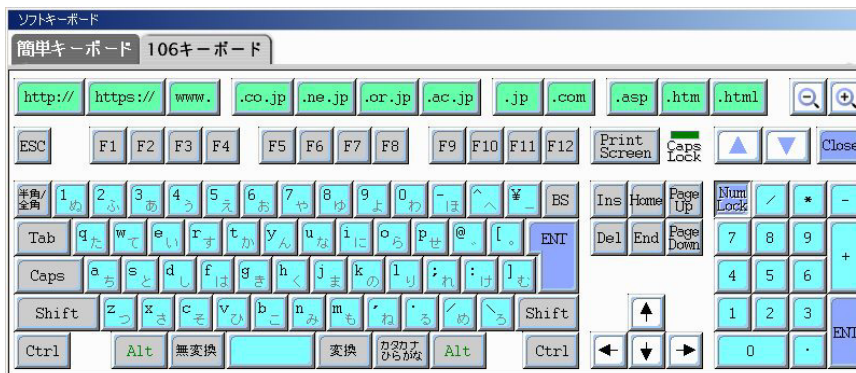
キー名称	機能
英数	「英数キーボード」を表示します。
かな	「ひらがなキーボード」を表示します。
カナ	「カタカナキーボード」を表示します。
小文字	小文字と大文字を交互に切り換えます。
半角	半角と全角を交互に切り換えます。

後退	カーソルの左横にある文字を 1 文字削除します。 文字を選択している場合は削除になります。
削除	カーソルの右横にある文字を 1 文字削除します。 文字を選択している場合は削除になります。
取消	変換直後は変換の取消し。 もう一度クリックすると変換前の文字の削除になります。
文節縮	変換するときの文字の区切りを縮めます。
文節伸	変換するときの文字の区切りを伸ばします。
変換	入力した文字を変換します。
確定	入力を確定します。
← ↑ ↓ →	カーソル位置を移動させます。
	キーボードを画面の上に移動します。
	キーボードを画面の下に移動します。
	ソフトウェアキーボードの表示サイズを縮小します。
	ソフトウェアキーボードの表示サイズを拡大します。
	キーをクリックすると、ソフトウェアキーボードを非表示にします。


②「106 キーボード」



市販の 106 日本語対応のキーボードとほぼ同じキー配列になっています。




106 日本語対応のキーボードには存在しないキーの機能について説明します。



定例句の入力を行うためのキー郡です。選択したキーに対応する定例句が入力されます。

キー名称	機能
	定例句 (http://, .html など) を入力します

キー名称	機能
	キーボードを画面の上に移動します。
	キーボードを画面の下に移動します。

	ソフトキーボードの表示サイズを縮小します。
	ソフトキーボードの表示サイズを拡大します。
	キーボードが画面から消えます。

アドバイス

- Windows ショートカットキーの中にはタスクマネージャーを表示する、アプリケーションを終了するキー組み合わせが存在します。本ソフトキーボードではエンドユーザー様が利用時にこれらの操作を行うことを禁止するため、いくつかの Windows ショートカットキーを無効にしています。
 - ①[shift]+[Ctrl]+[Esc] (タスクマネージャーの表示)
 - ②[Alt]+[F4] (アクティブプログラムの終了)
 - ③[Alt]+[Space] (アクティブウィンドウのショートカットメニューを開く)
 - ④[Ctrl]+[F4] (同時に複数のドキュメントを開けるプログラムでアクティブなドキュメントを閉じる)
 - ⑤[Ctrl]+[Esc] (「スタート」メニューを表示する)
 - ⑥[Alt]+[Tab] (開いているアイテムを順に切り替える)
 - ⑦[Alt]+[Shift]+[Tab] (開いているアイテムを逆順に切り替える)
 - ⑧[Ctrl]+[Alt]+[Del] (タスクマネージャーの表示)
 - ⑨[Alt]+[Esc] (現在開いている項目が順に切り替わる)
 - ⑩[Alt]+[Shift]+[Esc] (現在開いている項目が逆順に切り替わる)
- [Ctrl]+[BackSpace]キーの入力で文字列確定のアンドゥは行えません。
- 106 キーボード使用時次の操作を行った場合、「Alt」キー、「Caps」キーなどのトグル状態は解除されます。また IME OFF 状態(直接入力)で起動します。また、次の操作を行った直後に IME を ON にした場合の入力モードは、ローマ字入力モードに初期化されます。
 - ①ソフトキーボードを簡単キーボードへ切り替えた場合
 - ②ソフトキーボードを非表示にしてから再度表示した場合
 - ③ActiveX コンポーネントでソフトキーボードを呼び出した場合

6. ソフトキーボードによる文字の入力

「簡単キーボード」を使用した文字の入力

英数字の入力

1. [英数] キーを押して「英数キーボード」を表示する



2. キーボードに表示されたキーをクリックし、英数字を入力する

アドバイス

- 大文字を入力するには、[小文字] キーをクリックして入力モードを「大文字」に切り換えます。
- 全角を入力するには、[半角] キーをクリックして入力モードを「全角」に切り換えます。
- 全角で入力した場合、入力後に [確定] キーを押して入力を確定する必要があります。

ひらがなの入力

1. [かな] キーを押して「ひらがなキーボード」を表示する



2. キーボードに表示されたキーをクリックし、ひらがなを入力する
3. 入力した文字を確認したら [確定] キーをクリックして入力を確定する

アドバイス

- 小文字を入力する場合は、[大文字] キーをクリックして入力モードを「小文字」に切り換えます。

カタカナの入力

1. [カナ] キーを押して「カタカナキーボード」を表示する



2. キーボードに表示されたキーをクリックし、ひらがなを入力する
3. 入力した文字を確認したら [確定] キーをクリックして入力を確定する

アドバイス

- 小文字を入力する場合は、[大文字] キーをクリックして入力モードを「小文字」に切り換えます。
- 半角カタカナを入力するには、[全角] キーをクリックして入力モードを「半角」に切り換えます。

漢字の入力

漢字を入力する場合は「ひらがなキーボード」もしくは「カタカナキーボード」から文字を入力し、[変換] キーで漢字に変換した後、[確定] キーをクリックします。

「106 キーボード」を使用した文字の入力

[Shift]、[Ctrl]、[Alt] キーを他のキーと組み合わせて入力する場合は、先にこれらのキーをクリックし、次に組み合わせて入力したいキーをクリックします。

それ以外は、市販の 106 キーボードと同じ操作で文字を入力します。

7. ソフトキーボードの設定確認とその変更方法



ソフトキーボード設定

入力モード指定

【デフォルト キーマップ】 ☒ 簡単キーボード ☐ 106キーボード

【文字入力モード】 ☐ 英数字 ☒ ひらがな ☐ カタカナ

【変換モード】 ☒ 全角 ☐ 半角

【文字サイズ】 ☒ 大文字 ☐ 小文字

オート制御

☐ 【入力エリアを検知してキーボードをオープンする】

☐ 【入力フォーカスを自動的によける】

☐ 【キー入力のオートリピートを有効にする】

リピート間隔(50~1000ms) ms

表示設定

【キーボードの大きさ】 ☐ 小 ☒ 中 ☐ 大

【初期起動座標の指定】 ☐ 有 ☒ 無

X: Y:

☒ 【初期起動時WebToolXPを同時に起動】

☐ 【初期起動時キーボードを表示】

設定

取消

設定項目		設定内容
入力モード指定	デフォルトキーマップ	ソフトキーボード非表示状態からソフトキーボードを表示する際のソフトキーボードのキー配列を指定します。
	文字入力モード	「簡単キーボード」オープン時の、キーボードの文字入力モードを指定します。「106キーボード」オープン時の文字入力モードにはこの設定は反映されません。
	変換モード	「簡単キーボード」オープン時の、英数字の文字変換モードを指定します。【文字入力モード】を「ひらがな」または「カタカナ」にした場合は、この設定は反映されず全角入力となります。「106キーボード」オープン時の文字変換モードにはこの設定は反映されません。
	文字入力モード	「簡単キーボード」オープン時の、英数字の入力文字サイズを指定します。【文字入力モード】を「ひらがな」または「カタカナ」にした場合は、この設定は反映されず大文字入力となります。「106キーボード」オープン時の入力文字サイズにはこの設定は反映されません。
オート制御	入力エリアを検知してキーボードをオープンする（自動表示）	この項目にチェックを入れると、カレットを持つアプリケーションを起動またはアクティブにした場合に、自動的にソフトキーボードを表示します。 ※カレットが表示された状態でソフトウェアキーボードを非表示にした場合、カレットを持つアプリケーションをクリックするとソフトウェアキーボードが再表示されます。
	入力フォーカスを自動的によける（自動移動）	この項目にチェックを入れると、入力カレットの表示位置とソフトキーボードが重なった場合に、カレットが隠れない位置にソフトキーボードを移動します。 ※ソフトキーボードのサイズが大サイズの場合、入力フォーカスの位置がキーボードを移動しても隠れてしまい移動できない場合があります。（入力カレットが画面中央に表示されている場合）この場合は、一旦ソフトキーボードのサイズを小さくして、回避してください。

	キー入力のオートリピートを有効にする	この項目にチェックを入れると、ソフトキーボードのキー入力のオートリピート入力が可能となります。 「リピート間隔」で設定した時間キーを押し続けると、文字が再入力されます。 間隔は 50ms～1000ms の間で指定できます。
表示設定	キーボードの大きさ	表示するソフトキーボードの大きさを指定します。 デフォルトでは「中」サイズとなっています。
	初回起動座標の指定	この項目を「有」に設定すると、ソフトキーボードを起動後はじめて表示する座標をピクセル単位で指定することができます。 デフォルトは X 座標 0、Y 座標 0（ピクセル）になっています。 この項目を「無」に設定すると、ソフトキーボードの初回表示位置は、画面中央下部となります。設定はソフトキーボード再起動後有効になります。
	初回起動時 WebToolXPe を同時に起動	この項目にチェックを入れると、ソフトキーボード (Alternative Keyboard.exe) の起動時に、WebToolXPe も同時に起動します。
	初回起動時キーボードを表示	この項目にチェックを入れると、ソフトキーボード (Alternative Keyboard.exe) の起動時からキーボードを表示します。

アドバイス

- 設定画面の数値入力欄に初めてフォーカスを当てた場合は、ソフトキーボードが自動的に表示されます。これは自動表示モードによる自動表示ではありません。
- ソフトキーボードの設定画面が表示されている場合、テンキーボードの設定は行えません。
- テンキーボードとソフトキーボードを同時に自動表示モードにすることはできません。
- 初期表示時のキーボードの入力モードを変更できるのは簡単キーボードのときのみです。
入力モードはソフトウェアキーボードで初めてキー入力が行われた際に変更されます。
また、106キーボードの時は必ず直接入力状態で表示され、IME を ON にした時はローマ字入力モードになります。
- 座標位置を指定する場合、ソフトキーボードが画面内に収まらない場合、表示位置が画面内に収まるよう自動的に位置調整されます。

8. テンキーボード(TenKeybd.exe)の機能とキー配列

テンキーボードでは、数字および記号の入力を行うことができます。

テンキーボードでは全角文字の入力は行わず、全て半角文字で入力されます。

テンキーボード表示例：



(1) テンキーボード表示場所の移動

キーで画面の左、キーで画面の右に移動することができます。

キーボード上部のバーを押さえながらドラッグすると自由に移動することができます。

(2) テンキーボード非表示

[Close] キーをクリックすることでキーボードを非表示にすることができます。

(3) テンキーボードのキー配列と機能

キー名称	機能
数字キー群	半角の数字・記号を入力します。
記号キー群	半角記号を入力します。
	Tab コードを入力します。
	カーソルの左側の 1 文字が削除されます。(BackSpace キー)
	テンキーボードの表示位置を左に移動します。
	テンキーボードの表示位置を右に移動します。

Close	キーボードが非表示になります。
-------	-----------------

9. テンキーボードの設定確認とその変更方法



テンキーボード設定

オート制御

☐ 【入力エリアを検知してキーボードをオープンする。】

☐ 【入力フォーカスを自動的によける。】

☐ 【キー入力のオートリピートを有効にする。】

リピート間隔(50~1000ms) ms

表示設定

☐ 【初期表示位置を指定する】

X: Y:

【拡大率の指定】

1.0 倍

☐ 【初期起動時WebToolXPeを同時に起動】

☐ 【初期起動時キーボードを表示】

設定

取消

設定項目		設定内容
オート制御	入力エリアを検知してキーボードをオープンする（自動表示）	この項目にチェックを入れると、カレットを持つアプリケーションを起動またはアクティブにした場合に、自動的にテンキーボードをオープンします。 ※カレットが表示された状態でテンキーボードを非表示にした場合、カレットを持つアプリケーションをクリックするとテンキーボードが再表示されます。

	入力フォーカスを自動的によける（自動移動）	この項目にチェックを入れると、入力カレットの表示位置とテンキーボードが重なった場合に、カレットが隠れない位置にテンキーボードを移動します。 ※テンキーボードのサイズが最大サイズの場合、入力フォーカスの位置がキーボードを移動しても隠れてしまい移動できない場合があります。
	キー入力のオートリピートを有効にする	この項目にチェックを入れると、テンキーボードのキー入力のオートリピート入力が可能となります。 「リピート間隔」で設定した時間キーを押し続けると、文字が再入力されます。 間隔は 50ms～1000ms の間で指定できます。
表示設定	初期表示位置を指定する	この項目を「有」に設定すると、テンキーボードを起動後はじめて表示する座標をピクセル単位で指定することができます。 デフォルトはX座標 0、Y座標 0（ピクセル）になっています。 この項目を「無」に設定すると、テンキーボードの初回表示位置は、画面中央下部となります。設定はテンキーボード再起動後有効になります。
	拡大率の指定	テンキーボードの表示サイズを指定します。 デフォルトでは「1.0」倍となっています。
	初回起動時 WebToolXPe を同時に起動	この項目にチェックを入れると、テンキーボードの起動時（Tenkeybd.exe の実行時）に、WebToolXPe も同時に起動します。
	初回起動時キーボードを表示	この項目にチェックを入れると、テンキーボードの起動時（Tenkeybd.exe の実行時）に、キーボードを表示します。

アドバイス

- 設定画面の数値入力欄に初めてフォーカスを当てた場合は、テンキーボードが自動的に表示されます。これは自動表示モードによる自動表示ではありません。
- テンキーボードの設定画面が表示されている場合、ソフトキーボードの設定は行えません。
- テンキーボードとソフトキーボードを同時に自動表示モードにすることはできません。
- 座標位置を指定する場合、テンキーボードが画面内に収まらない場合、表示位置が画面内に収まるよう自動的に位置調整されます。

10. 引数による設定情報の読み出し・保存先の指定





11. ActiveX を用いたブラウザからのソフトウェアキーボード制御

ActiveX コンポーネント(kbd.dll)を使用してソフトキーボードの設定（入力変換モード、オート制御、表示サイズなど）、テンキーボードの設定（オート制御、表示サイズなど）を一時的に変更して使用することができます。

アドバイス

- ActiveX コンポーネントで有効にした設定は一時的なものです。設定情報に基づいた設定に戻したい場合は再度設定画面を開き、「設定」を押してください。再び設定情報に基づき動作します。

(1) 各キーボード制御クラスとそのメソッド

Class 名	SubClass 名	説明
Kbd 制御オブジェクトクラス	①Kbd. SoftkeyCtrl	ソフトキーボードの表示/オート制御/非表示を直接制御します。
	②Kbd. TenkeyCtrl	テンキーボードの表示/オート制御/非表示を直接制御します。

①Kbd. SoftkeyCtrl に含まれるメソッドとその仕様

メソッド名	機能	引数仕様	
open	ソフトキーボードを表示し同時に、サイズ、表示位置、入力モードを変更します。	第一引数	ソフトキーボード表示時、表示するキーボード名を文字列で指定します。指定できるのは” 簡単キーボード”（デフォルト）、” 106 キーボード” の何れか一つです。
		第二引数	簡単キーボードの入力モードを文字列で指定します。指定できるのは “英数” or “ひら”（デフォルト） or “カナ” の何れか一つです。
		第三引数	簡単キーボードの変換モードを文字列で指定します。指定できるのは “全角” or “半角” の何れか一つです。
		第四引数	簡単キーボードの文字サイズを文字列で指定します。指定できるのは “大文字” or “小文字” の何れか一つです。
		第五引数	表示キーボードサイズを文字列で指定します。指定できるのは “大” or “中” or “小” の何れか一つです。
		第六引数	画面左上隅を基準とした座標系でキーボードの表示 X 座標を指定します。デフォルトはキーボード中央となっています。
		第七引数	画面左上隅を基準とした座標系でキーボードの表示 Y 座標を指定します。デフォルトはキーボード画面下部となっています。
attr	ソフトキーボードの自動表示、自動移動、オートリピートを制御します。	第一引数	キーボードの自動表示モードの有効無効を文字列で指定します。“enable” or “disable”（デフォルト）の何れか一つです。
		第二引数	キーボードの自動移動モードの有効無効を文字列で指定します。“enable” or “disable”（デフォルト）の何れか一つです。
		第三引数	キーボードのオートリピートモードの有効無効を文字列で指定します。“enable” or “disable”（デフォルト）の何れか一つです。
close	表示中のソフト		

	キーボードを非表示にします。	
--	----------------	--

- A) open メソッド引数利用型 (例)
`open(' 簡単キーボード', '英数', '全角', '大文字', '大', -1, 0)`
- B) attr メソッド引数利用型 (例)
`attr('enable', 'disable', 'disable')`
- C) close メソッド利用型 (例)
`close()`

アドバイス

- Open メソッド使用時、「入力モードの指定」ならびに「変換モードの指定」はソフトキーボードの「簡単キーボード」に対してのみ適用されます。また、「入力モード」が”かな”,”カナ”の場合「変換モード」、「文字サイズ」の指定は有効になりません。常に「全角」、「大文字」で起動します。
- Open メソッド使用時、座標位置を指定する際ソフトキーボードが画面内に収まらない場合、表示位置が画面内に収まるよう自動的に位置調整されます。

②Kbd.TenkeyCtrl に含まれるメソッドとその仕様

メソッド名	機能	引数仕様	
open	テンキーボードを表示し同時に、サイズ、表示位置、を変更します。	第一引数	テンキーボード拡大倍率を文字列でパーセント単位で指定します。 (100 ⇒ 1.0 倍) (100~247 まで)
		第二引数	画面左上隅を基準とした座標系でキーボードの表示 X 座標を指定します。デフォルトはキーボード中央となっています。
		第三引数	画面左上隅を基準とした座標系でキーボードの表示 Y 座標を指定します。デフォルトはキーボード画面下部となっています。
attr	テンキーボードの自動表示、自動移動、オートリピートを制御します。	第一引数	キーボードの自動表示モードの有効無効を文字列で指定します。“enable” or “disable” (デフォルト) の何れか一つです。
		第二引数	キーボードの自動移動モードの有効無効を文字列で指定します。“enable” or “disable” (デフォルト) の何れか一つです。
		第三引数	キーボードのオートリピートモードの有効無効を文字列で指定します。“enable” or “disable” (デフォルト) の何れか一つです。
close	表示中のテンキーボードを非表示にします。		

- A) open メソッド引数利用型 (例)
`open(100, 0, 0)`
- B) attr メソッド引数利用型 (例)
`attr('enable', 'disable', 'disable')`
- C) close メソッド利用型 (例)
`close()`

アドバイス

- open メソッド使用時、座標位置を指定する際テンキーボードが画面内に収まらない場合、表示位置が画面内に収まるよう自動的に位置調整されます。

(2) ブラウザからの呼び出し

HTML 文書を使用しての呼び出しは JavaScript を使用して呼び出します。

作成手順

- ①ActiveXObject 関数の引数にソフトキーボード、テンキーボード制御クラス（オブジェクト）を渡し、スクリプト上で解釈される新たなオブジェクトを作成します。

```
var tenkey = new ActiveXObject("Kbd.TenkeyCtl");
```

- ②作成したオブジェクトに含まれるメソッドを HTML タグ内などで仕様に従った引数を渡して呼び出します。

```
<input type=text onfocus="JavaScript:tenkey.open(130,200,300);return false;">
```

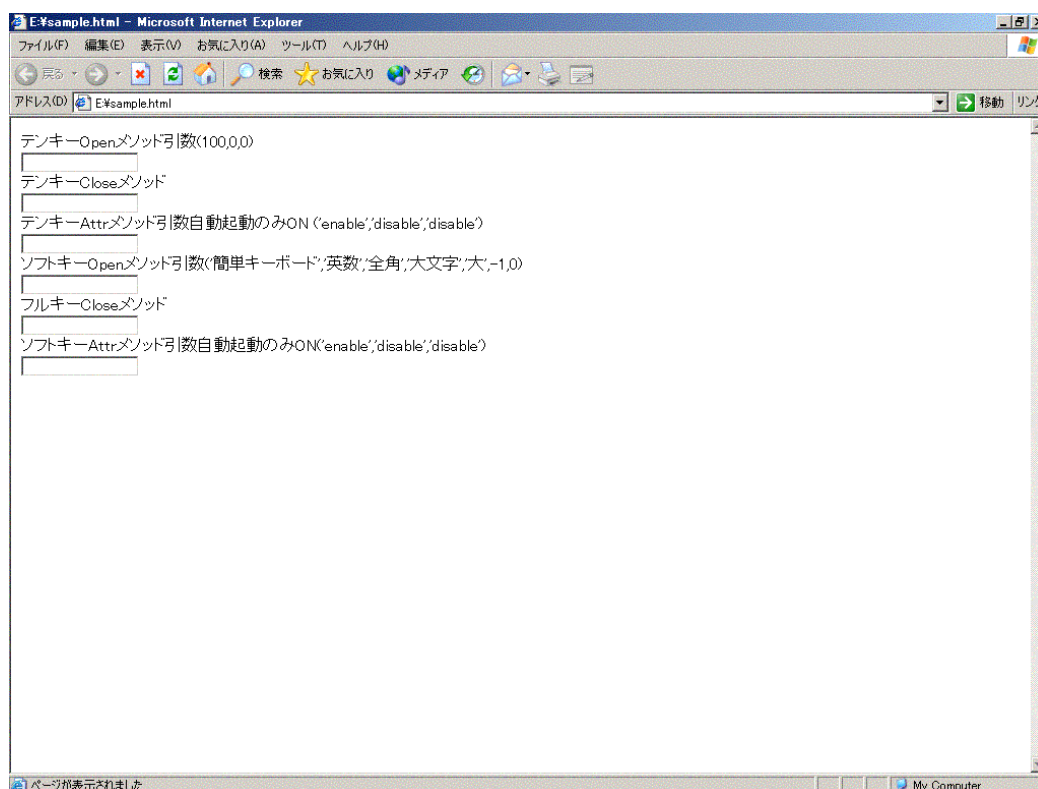
----- 以下 サンプルスクリプト -----

```
<html>
<head>
<script language="JavaScript">
<!--
var tenkey = new ActiveXObject("Kbd.TenkeyCtl");
var softkey = new ActiveXObject("Kbd.SoftkeyCtl");
//-->
</script>
</head>
<body>
テンキーOpen メソッド引数(100,0,0)
<input type=text onfocus="JavaScript:tenkey.open(100,0,0);return false;"><BR>
テンキーClose メソッド
<input type=text onfocus ="JavaScript:tenkey.close();return false;"><BR>
テンキーAttr メソッド引数自動表示のみ ON ('enable','disable','disable')
<input type=text
onfocus="JavaScript:tenkey.attr('enable','disable','disable');return false;"><BR>

ソフトキーOpen メソッド引数('簡単キーボード','英数','全角','大文字','大',-1,0)
<input type=text onfocus="JavaScript:softkey.open('簡単キーボード','英数','全角','大文字','大',-1,0);return false;"><BR>
フルキーClose メソッド
<input type=text onfocus ="JavaScript:softkey.close();return false;"><BR>
ソフトキーAttr メソッド引数自動表示のみ ON('enable','disable','disable')
<input type=text
onfocus="JavaScript:softkey.attr('enable','disable','disable');return false;"><BR>
</body>
</html>
```

----- 以上 サンプルスクリプト 終了 -----

スクリプト実行例：



アドバイス

- 自動表示モードを使用時、Close メソッドでキーボードを非表示にする場合は一旦自動表示モードを解除した後で行ってください。自動表示の解除を行わないと自動表示モードが有効なため一旦クローズされたキーボードが再度表示されます。
- テンキーボードとソフトキーボードを同時に自動表示モードにすることはできません。後から自動表示モードに変更したキーボードの自動表示が有効になります。また、前に自動表示モードだったキーボードは表示されている場合、非表示になります。

7 アプリケーションの追加

7.1 インストール方法について

Sler 様が開発された専用アプリケーションや市販のパッケージソフトを追加することで、本製品を Web ベースの業務処理だけではなく、より多機能な端末として使用することが可能になります。

また、標準対応以外の周辺機器との接続には、その機器に対応したデバイスドライバ（以下ドライバと略す）の追加が必要になります。

本製品へアプリケーションやドライバを追加する方法には、次のものがあり、目的に応じて選択することが可能です。

1. ユーザーインストール

ご購入後に Sler 様側でアプリケーションやドライバを追加することも可能です。

ただし、本製品のシステム部には、書き込みを禁止するプロテクト（システム保護機能）が掛けられていますので、目的に応じてインストール方式を選択してください。

1) パートタイム方式

アプリケーションやドライバの一時的なインストールになります。インストール情報は、電源が ON になっている間有効ですが、電源を OFF にすると全て消去されますので、評価インストール等に最適です。

➡ 詳細は77ページで説明しています。

2) フルタイム方式

アプリケーションやドライバの通常インストールになります。

➡ 詳細は78ページで説明しています。

7.2 システム保護機能について

本製品は不特定多数のエンドユーザが使用することを前提としているため、システム部のシステム領域とアプリケーション領域（C ドライブ）に、書き込みを禁止するプロテクト（システム保護機能）を掛けて出荷しています。

この状態で、システム部にデータの書き込み操作（設定変更含む）が行われた場合、データはシステム部には書き込まれず、本体の RAM に読み込まれます。

これにより、本製品はシステム部のデータを保護したまま、あたかもシステム部にデータが書き込まれたかのような動きをすることが可能になっています。

RAM に読み込まれたデータは、本製品の電源を切ると同時に全て消去されますので、次回起動時には元のクリーンなシステム状態で本製品を使用することができます。

アドバイス

- Sler 様がシステムやアプリケーションの設定を変更し、変更内容を保存しておくためには、このプロテクトをいったん解除し、設定作業を行う必要があります。
作業終了後は、システム保護のため再びプロテクトを掛け、元の状態に戻しておきます。
- ネットワーク接続している状態でこのプロテクト解除を行い、設定作業を行う必要がある場合には必ずセキュリティ、ウィルス対策を万全に行っているネットワーク環境（ファイアウォールを設けている環境など）で行ってください。また作業終了後はシステム保護のため再びプロテクトを掛け、元の状態に戻すことを忘れずにおこなってください。

7.3 インストールに必要な準備

本製品には CD-ROM ドライブや FD ドライブ等が装備されていないので、アプリケーションやドライバのインストールには、次のような準備が必要になります。

1. 他のパソコンとのネットワーク共有

他のパソコンに装備されている CD-ROM ドライブ、FD ドライブ、HD ドライブをネットワーク共有し、そこからインストールします。

2. CF カードへのデータ書き込み

他のパソコンを使って、インストールするデータを CF カードに書き込み、本製品の拡張 CF カードスロットに装着し、そこからインストールします。

3. USB メモリカードへのデータ書き込み

他のパソコンを使って、インストールするデータを USB メモリカードに書き込み、本製品の USB ポートに装着し、そこからインストールします。

7.4 インストール先について

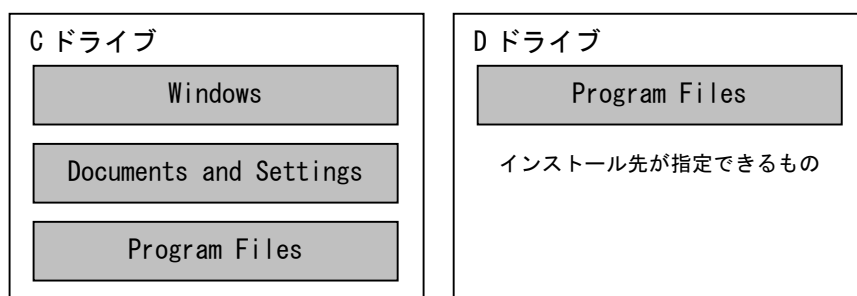
1. インストール先のドライブ

通常、一般のパソコンでは C ドライブにアプリケーションをインストールしますが、本製品では C ドライブの容量に制限があるため、場合によりアプリケーションは他のドライブ（D、E ドライブ等）にインストールしなければならない場合があります。

2. フォルダ構成

アプリケーションやドライバは、それぞれ決められたフォルダにインストールされます。

- ドライバ⇒「Windows」フォルダ
- 各種設定（レジストリ）⇒「Documents and Settings」フォルダ
- マイドキュメント⇒「Documents and Settings」フォルダ
- アプリケーション⇒「Program Files」フォルダ



アドバイス

- システム領域にインストールが必要なアプリケーションやドライバは C ドライブにインストールしてください。

7.5 パートタイム方式でのインストール

システム保護機能を掛けた状態で、アプリケーションやドライバの一時的なインストールを行います。

システム部のデータを保護したままインストールが可能ですので、評価インストール等に最適です。

電源を切ることによって全てのインストール情報は消去され、元のクリーンなシステム状態に戻ります。

インストール内容	種類	インストール方法
ドライバ	全般	一般の WindowsXP 搭載パソコンへのインストール方法と同様。
アプリケーション	レジストリの変更やシステム領域へのインストールを要求されるもの	同上
	レジストリの変更は要求されるが、インストール先のドライブは任意に選択可能なもの	同上 ただし、インストール先は C ドライブ以外を指定。
	特別な設定を必要とせず、単体で起動可能なもの	C、D ドライブ以外にアプリケーション一式を直接コピー

アドバイス

- インストール後に再起動が必要なアプリケーションは、この方式でインストールすることはできません。フルタイム方式でインストールする必要があります。
- RAM の容量（リソースの空き容量）を超えるデータはインストールできません。
- アプリケーションによっては、本製品に標準搭載されているライブラリファイル以外のもが必要となる場合があります。そのときは必要なライブラリファイルを別途ご用意いただき、システム部にインストールしてください。
- C ドライブ以外にインストールしたデータは、電源を切っても消去されません。不要になったときには、ファイルを直接削除してください。

7.6 フルタイム方式でのインストール

システム保護機能を解除して、アプリケーションやドライバのインストールを行います。

一般のパソコンへのインストールと同様、システム部のデータが変更されますので、元のクリーンなシステム状態には戻りません。

➡ クリーンなシステム状態に戻す方法（システムリカバリ）は80ページで説明しています。

1. システム保護機能の解除



2. インストール

アプリケーションやドライバのインストールを行います。

インストール内容	種類	インストール方法
ドライバ	全般	一般の WindowsXP 搭載パソコンへのインストール方法と同様
アプリケーション	レジストリの変更やシステム領域へのインストールを要求されるもの	同上
	レジストリの変更は要求されるが、インストール先のドライブは任意に選択可能なもの	同上 ただし、インストール先は C ドライブ以外を推奨
	特別な設定を必要とせず、単体で起動可能なもの	C ドライブ以外にアプリケーション一式を直接コピー

3. 再プロテクト



7.7 動作確認済みアプリケーション一覧

名 称	バージョン
Windows Media Player	9.0
Macromedia Flash Player	6.0
Netscape	4.8
Netscape	7.0
Real One Player	2.0
Power DVD	4.0
Acrobat Reader	5.0

アドバイス

- 上記アプリケーションのインストールと動作を確認していますが、その動作を保証するものではありません。
- 上記アプリケーションであっても、ドライブの空き容量以上を要求される場合はインストールできません。
- 上記以外のアプリケーションのインストールをご希望の場合は、弊社営業部にご相談ください。
- 弊社の技術者以外がプロテクトを解除してアプリケーションをインストールした場合カスタム設定という位置付けになり、システムやアプリケーションの動作に関する問題は弊社の保証対象外となります。
- カスタム設定を行った後には十分に動作確認を行ってください。

8 システムリカバリ

8.1 システムリカバリについて

万一、本製品をご使用中にシステムクラッシュやコンピュータウィルスによるダメージなどで、起動不能や動作不安定などの症状があらわれた場合のシステムリカバリ用にリカバリキットをオプション品として用意しています。

このリカバリキットを用いてシステムリカバリを行えば OS や環境のバックアップや修復が行えます。

なお、システムリカバリではシステム全体の修復を一括処理するため、アプリケーション等を個別に修復することはできませんのでご注意ください。

このリカバリキットについての詳細は弊社営業部までお問い合わせください。

9 設置時の注意

9.1 設置条件について

本製品を設置するときには、「安全上の注意」よく読み、内容を十分理解してから作業を行ってください。

(a) 設置にあたっては、本製品の仕様に沿った環境下でご使用ください。

また、次のような場所への設置は避けてください。

- ・ 周囲温度、相対湿度が一般仕様の範囲を超える場所
- ・ 温度変化が急激で結露する場所
- ・ 腐食性ガス、可燃性ガス、溶剤・研磨液などの雰囲気のある場所
- ・ 極端にほこり、塩分、鉄分が多い場所
- ・ 長時間、直射日光が当たる場所
- ・ 雨、露などの水分が発生する機器、装置のある場所
- ・ 振動のある場所や衝撃が加わる場所

(b) 本製品の通気穴はふさがないでください。熱がこもり故障の原因になります。通気穴付近は最低 5 cm 以上離して設置してください。

(c) 水平で安定した机、テーブルなどの上に置いて使用してください。

(d) オプションスタンドご利用の場合、モニタの角度は上下に可変できますので見やすい角度に合わせてください。

(e) 電源

- ・ 本体と同梱の専用 AC アダプタをご使用ください。
- ・ 電圧変動が規定値を超える場合は、定電圧トランスを接続してください。
- ・ 本製品の電源配線は、動力機器および動力線、入出力信号線とは 200mm 以上離して配線してください。

(f) 接地

- ・ 保護接地端子（アース線）はかならず第 D 種接地をしてください。接地をしないと感電するおそれがあります。

(g) その他の結線

- ・ RS-232C やイーサネットのケーブルは電源ケーブルやその他の高圧線や動力線、入出力信号線とは 200mm 以上離して配線してください。
- ・ RGB ケーブルやプリンタケーブルは電波妨害防止のためコア付きのケーブルを使用してください。

9.2 取り付け金具について

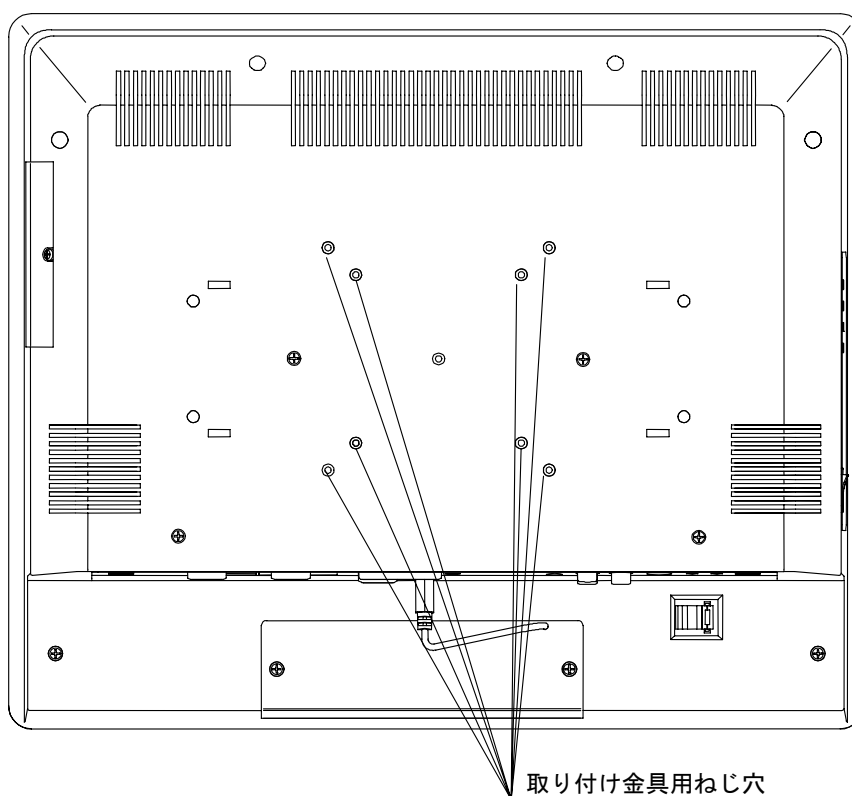
本製品を壁や天井の吊り具に取り付けて使用する場合は、VESA FPMPI (75mm×75mm、100mm×100mm) 規格に準拠した取り付け金具を使用し、本体裏側にあるネジ穴に確実に取り付けてください。

警告

本製品の落下による負傷事故を防ぐため次のことを守ってください。

- 取り付け金具は VESA FPMPI 規格に準拠し、本製品の重量に耐えられるものを使用してください。
- 取り付けネジは M4 × 5 ミリ (取り付け板厚含まず) を使用してください。
- かならず指定のネジ穴に固定してください。
- 本製品の重量に耐えられる場所に取り付けてください。
- 絶えず振動や衝撃が加わる場所には取り付けないでください。

本製品裏面



10 エンドユーザに伝える注意事項

10.1 個人情報の管理について

ホームページの閲覧に使用するブラウザや、インターネットメールに使用するメーラはエンドユーザの個人情報を記録しています。そのため不特定多数のエンドユーザが1台の端末を利用する環境では、次のような問題の発生が予想されますので、Sler 様側で予防策を盛り込んだシステム運用をされると同時に、エンドユーザにも個人情報の管理を徹底させてください。

1. ブラウザ使用時の主な問題点

- 閲覧履歴を第三者に見られることによるプライバシーの侵害。
- 登録した ID やパスワードを第三者に盗まれ、悪用されるおそれ。

2. メーラ使用時の主な問題点

前のユーザのメールアカウントが設定されたままの状態、次のユーザが使用を開始した場合は、

- 前のユーザあてのメールが次のユーザに届く問題。
- 前のユーザあてのメールを次のユーザが見ることによるプライバシーの侵害。
- 前のユーザになりすまして次のユーザがメールを送信することによる問題。

前のユーザのメールや、送受信の記録、アドレス帳等のデータが残っていた場合は、

- 消し忘れたメールを第三者が見ることによるプライバシーの侵害。
- 前のユーザになりすまして次のユーザがメールを送信することによる問題。

などの発生が予想されます。

本製品に付属の「P'e-Mail」には「全記録削除」の機能があり、これを使うことで前のユーザのメールアカウント、送受信の記録、アドレス帳等のデータを一括して消去することができます。本製品の利用を終了する際にはエンドユーザ自身がこの「全記録削除」作業を行う必要があります。

アドバイス

- コンピュータウィルスに対しても十分な予防策を講じたシステム運用を行ってください。

10.2 部品や本体の廃棄について

本製品の LCD バックライトには蛍光管が使用されています。破棄の際には各自治体の条例に従って処理するようエンドユーザにお伝えください。

10.3 取扱説明書について

エンドユーザ向け取扱説明書をよく読み、内容を理解してから本製品を使用するようエンドユーザにお伝えください。

11 日常のお手入れ

11.1 本体のお手入れ

お手入れの前には、本製品の電源を OFF にしてください。

1. 外装清掃時

- 本装置やオプション機器の外装汚れを拭き取る際には、電源を OFF にした後、柔らかい布に中性洗剤をたれない程度にしみこませて、汚れを軽くふき取ってください。
- 決してベンジン、シンナーなどの溶剤を使用しないでください。変色や変形のおそれがあります。

2. タッチパネル清掃時

- タッチパネルやケースが汚れた場合は、水で薄めた中性洗剤や工業用アルコールを柔らかい布や脱脂綿にしみこませ、汚れをふき取るようにしてください。
- 中性洗剤を使用する場合は、かたく絞ってから、ふき取るようにしてください。
- シンナーなどの有機溶剤や、アンモニア、強酸・強アルカリ性の洗剤などで拭かないでください。

12 故障かなと思ったら

本製品を使用中に起きる可能性のあるトラブルとその解決方法について説明します。何か困ったことやわからないことがありましたら、本章をお読みください。

それでも、解決しない場合は弊社営業部までご連絡ください。

Q1 画面が写らない。または暗い

- バックライトが切れている可能性があります。確認してください。

Q2 音声が出力されない。または小さい

- 内蔵スピーカのジャックが正しく接続されているか確認してください。(27ページ参照)
- 「コントロールパネル」から「サウンドとオーディオデバイス」で音量を確認してください。

Q3 タッチパネルの位置が合わない

- 「コントロールパネル」から「タッチパネル」を起動してタブの「位置補正」を選択後、「補正を実行する」を選択してください。画面に従い、赤い「+」を9点押してタッチパネルの位置を修正してください。

Q4 タッチパネルが正常に動作しない

- 以下のことを確認してください。
 - ・ タッチパネルにゴミなどが付着していないか
 - ・ ベゼルが変形してタッチパネルに接触していないか
 - ・ タッチパネルにキズやヒビがないか

Q5 ホームページが表示されない（インターネットに接続できない）

- LAN ケーブルが正常に接続されているか確認してください。(19ページ参照)
- 本製品の IP、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイのアドレスが正しく設定されているか確認してください。
- DHCP サーバーを使用する場合は DHCP サーバーが正常に動作しているか確認してください。
- プロキシサーバーを使用する場合は、アドレス、プロキシポート番号が正しく入力されているか確認してください。また、プロキシサーバーを使用しないときはチェックボックスのチェックを外してください。

Q6 メールが送受信できない

- メールソフトのアカウント、POP、SMTP サーバーの設定を確認してください。

13 主要消耗品

13.1 タッチパネル

タッチパネルは寿命品です。汚れや傷が目立ってきて清掃でも落としきれない場合、または調整してもタッチ位置精度が出ない場合は交換する必要があります。

タッチパネルの交換については、弊社営業部にお問い合わせください。

13.2 バックライト

本製品の LCD モニタの照明には冷陰極管を使用したバックライトが使われています。

バックライトは消耗品であり、表示の明るさが暗くなった場合は交換が必要です。

バックライトは以下のような使い方をされますと輝度及び寿命が大幅に低下します。

- 低い周囲温度（5℃以下）での使用
ヒーターの設置やできるだけ常温に近い環境での使用をおすすめします。
やむを得ずご使用の場合は定期的なバックライトの交換をおすすめします。
- 頻繁なバックライトの ON/OFF

バックライトの交換については、弊社営業部にお問い合わせください。

改訂履歴

版 数	改訂日付	変 更 内 容
初版	2003 年 10 月 20 日	新規発行
2 版	2004 年 01 月 28 日	お問い合わせ先を修正
3 版		

お問い合わせ先

KOMATSU

コマツトライリンク株式会社 <http://www.komatsu-trilink.jp>
情報通信事業部

〒240-0005 神奈川県横浜市保土ヶ谷区神戸町134番地
横浜ビジネスパーク Hi-tech センター2階

＜営業部＞

TEL 045-339-1670

FAX 045-339-1671

＜サポートセンタ＞

TEL 045-332-2155

FAX 045-332-2650

MAIL ifa.el@komatsu-trilink.jp